

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月27日
【事業年度】	第40期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	株式会社ケーユーホールディングス
【英訳名】	KU HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 井上 恵博
【本店の所在の場所】	東京都町田市鶴間1670番地
【電話番号】	(042)799-2130（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役総合企画部長 堀内 伸泰
【最寄りの連絡場所】	東京都町田市鶴間1670番地
【電話番号】	(042)799-2130（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役総合企画部長 堀内 伸泰
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第36期 平成20年3月	第37期 平成21年3月	第38期 平成22年3月	第39期 平成23年3月	第40期 平成24年3月
売上高(百万円)	48,948	41,758	37,108	43,204	49,459
経常利益(百万円)	2,009	1,500	1,452	1,967	3,014
当期純利益(百万円)	787	481	3,687	551	2,150
包括利益(百万円)	-	-	-	526	2,180
純資産額(百万円)	20,970	20,896	24,388	24,426	26,219
総資産額(百万円)	28,655	28,455	29,159	29,469	32,094
1株当たり純資産額(円)	1,153.85	1,214.76	1,441.75	1,540.12	1,695.34
1株当たり当期純利益金額(円)	43.42	26.86	215.50	34.06	136.26
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額(円)	43.23	26.76	213.96	33.70	133.93
自己資本比率(%)	73.0	73.2	83.4	82.6	81.4
自己資本利益率(%)	3.8	2.3	16.3	2.3	8.5
株価収益率(倍)	10.82	8.15	1.74	10.48	4.15
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	1,705	2,679	1,150	1,514	3,176
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	1,696	1,809	1,277	2,133	84
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	269	342	308	552	404
現金及び現金同等物の期末残高(百万円)	4,494	5,021	4,586	3,414	6,101
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)(人)	603 (147)	545 (135)	526 (111)	544 (127)	544 (150)

(注) 売上高には消費税等は含まれておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第36期 平成20年3月	第37期 平成21年3月	第38期 平成22年3月	第39期 平成23年3月	第40期 平成24年3月
売上高又は営業収益(百万円)	11,882	1,102	1,516	1,707	2,433
経常利益(百万円)	708	398	730	548	1,443
当期純利益又は当期純損失( ) (百万円)	65	48	3,419	87	1,585
資本金(百万円)	6,321	6,321	6,321	6,321	6,321
発行済株式総数(株)	23,063,012	23,063,012	23,063,012	23,063,012	23,063,012
純資産額(百万円)	17,453	16,851	20,064	19,473	20,702
総資産額(百万円)	21,636	21,991	22,266	22,623	22,917
1株当たり純資産額(円)	959.91	978.94	1,185.46	1,226.78	1,337.29
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	15.00 (7.50)	10.00 (5.00)	10.00 (5.00)	11.50 (5.00)	18.00 (6.50)
1株当たり当期純利益金額又は1 株当たり当期純損失金額( ) (円)	3.62	2.72	199.79	5.42	100.50
潜在株式調整後1株当たり当期純 利益金額(円)	3.61	-	198.36	-	98.78
自己資本比率(%)	80.5	76.4	89.8	85.7	89.9
自己資本利益率(%)	0.4	0.3	18.6	0.4	7.9
株価収益率(倍)	129.83	-	1.88	-	5.63
配当性向(%)	414.4	-	5.0	-	17.9
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)(人)	8 (-)	11 (-)	26 (-)	40 (4)	41 (4)

(注) 1. 売上高又は営業収益には消費税等は含まれておりません。

2. 当社は、平成19年10月1日付で、会社分割を行い純粋持株会社体制へと移行いたしました。従いまして、第37期の売上高又は営業収益は、第36期以前と比較して大きく減少しております。

3. 第36期平均臨時雇用者数については、会社分割後の平均臨時雇用者数を記載しております。

4. 第37期および第39期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

5. 第37期および第39期の株価収益率および配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。

## 2【沿革】

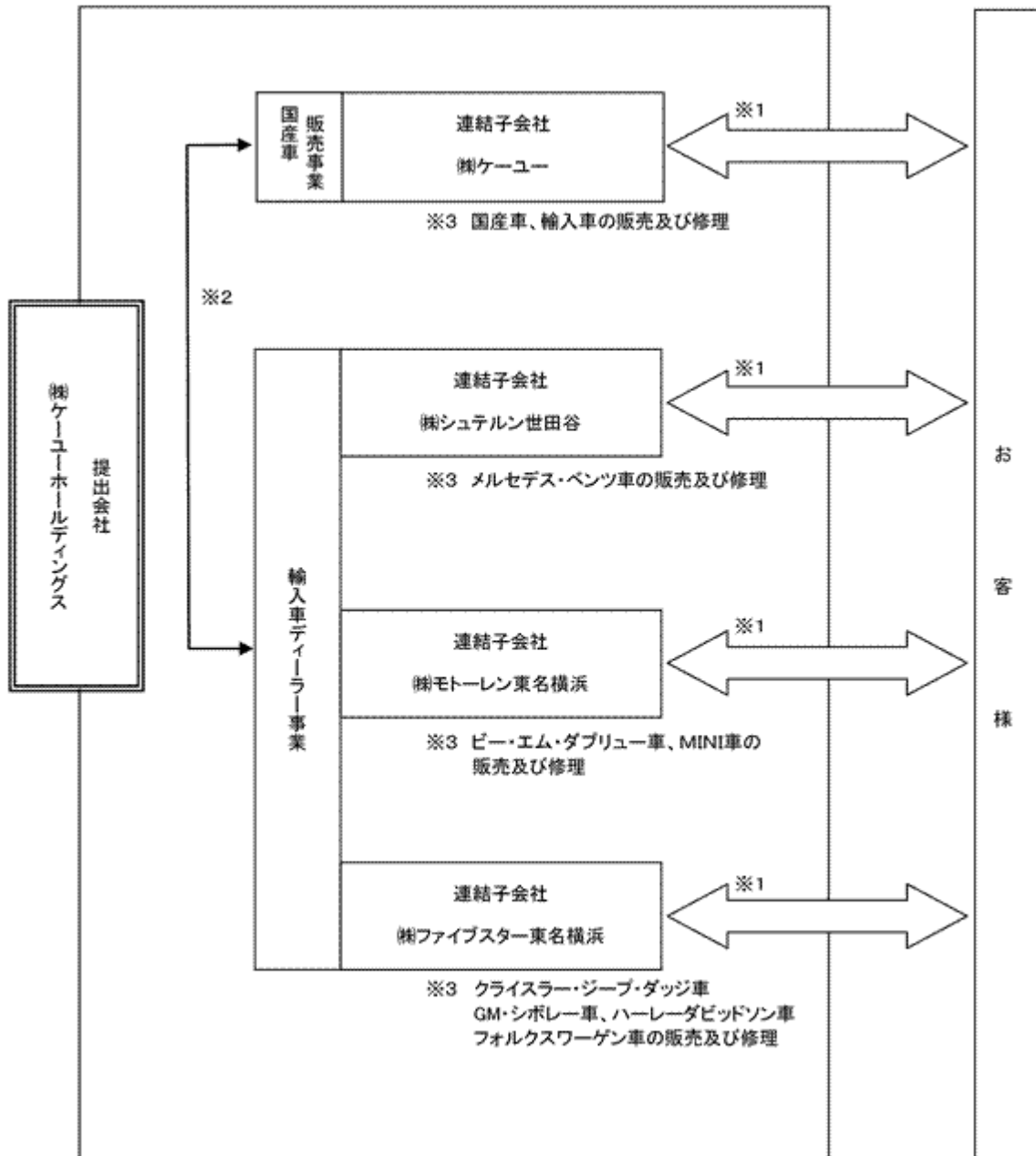
年月	主な沿革
昭和47年10月	東京都町田市においてケーユー商事(株)を設立、自動車販売業務を開始
昭和52年12月	本社サービス工場を設置、自動車修理業務を開始
昭和55年7月	本社営業所竣工
昭和57年9月	(株)オートラマケーユー(子会社・現(株)ファイブスター東名横浜)を設立
昭和63年4月	ケーユーモータース(株)を吸収合併、自動車修理業務を再開
昭和63年6月	(株)ビ・ケーユー(子会社・現(株)シュテルン世田谷)を設立 商号を(株)ケーユーに変更
昭和63年7月	ライダーズショップケーユー相模原店(現ハーレーダビッドソン相模原)を設置
昭和63年12月	メルセデス・ベンツ日本(株)と販売店契約を締結
昭和64年1月	(株)ビ・ケーユーを(株)シュテルン東名横浜(現(株)シュテルン世田谷)へ商号変更
平成元年12月	社団法人日本証券業協会(現日本証券業協会)に株式店頭登録
平成4年10月	(株)シュテルン東名横浜(現(株)シュテルン世田谷)多摩支店(現メルセデス・ベンツ多摩)を設置
平成6年5月	インポートカーケーユー東名横浜店を設置
平成6年6月	相模原西営業所を設置
平成6年7月	横須賀営業所を設置
平成8年9月	ハーレーダビッドソンジャパン(株)と正規販売店契約を締結
平成8年11月	クライスラージャパンセールス(株)(現クライスラー日本(株))とメインディーラー契約を締結
平成8年12月	戸塚営業所を設置 千葉営業所を設置
平成9年4月	東京証券取引所(現(株)東京証券取引所)市場第二部に株式上場 (株)シュテルン東名横浜(現(株)シュテルン世田谷)中古車センター(現メルセデス・ベンツ東名横浜サーティファイドカーセンター)を設置
平成9年7月	クライスラー相模原店(現クライスラー・ジープ・ダッジ相模原)を設置
平成9年8月	クライスラー東名横浜店(現クライスラー・ジープ・ダッジ東名横浜)を設置
平成9年11月	秦野営業所を設置
平成10年1月	久喜白岡営業所を設置
平成12年4月	本社営業所立体展示場竣工
平成12年8月	(株)シュテルン世田谷を買収
平成13年5月	(株)シュテルン世田谷中古車センター(現メルセデス・ベンツ世田谷南サーティファイドカーセンター)を設置
平成13年10月	(株)シュテルン東名横浜と(株)シュテルン世田谷を合併(現(株)シュテルン世田谷)
平成14年12月	東大和営業所を設置
平成15年7月	(株)シュテルン世田谷あざみ野支店(現メルセデス・ベンツあざみ野)を設置
平成16年10月	宇都宮インターパーク店を設置
平成16年11月	(株)モトーレン東名横浜を設立
平成17年1月	(株)モトーレン東名横浜がピー・エム・ダブリュー東京(株)より5店舗の営業権を譲受
平成19年3月	三郷インター店を設置
平成19年4月	(株)シュテルン世田谷メルセデス・ベンツ東名横浜をリニューアルオープン
平成19年10月	商号を(株)ケーユーホールディングスに変更、新設分割により事業会社(株)ケーユーを設立
平成19年12月	(株)ケーユー千葉ニュータウン店を設置
平成20年4月	(株)ケーユー鶴川店を、(株)モトーレン東名横浜町田鶴川アブルーブドカー・センター(現BMW Premium Selection 町田鶴川)としてリニューアルオープン
平成20年6月	(株)モトーレン東名横浜港南支店を事業譲渡
平成20年7月	(株)モトーレン東名横浜BMW Premium Selection 横浜六角橋を設置
平成21年4月	東名横浜クライスラー(株)を(株)ファイブスター東名横浜に商号変更
平成21年4月	(株)ケーユーのGMシボレー東名横浜を分割し、(株)ファイブスター東名横浜が継承
平成21年7月	(株)モトーレン東名横浜横浜西口支店を廃止し、横浜三ツ沢支店として設置
平成21年10月	(株)ケーユーのハーレーダビッドソン相模原を分割し、(株)ファイブスター東名横浜が継承
平成21年12月	(株)ファーレン神奈川中央(現(株)ファイブスター東名横浜)フォルクスワーゲン相模原橋本を設置
平成22年2月	(株)ケーユー本店をリニューアルオープン
平成22年3月	(株)ファイブスター東名横浜GM・クライスラー正規店同時開設
平成22年4月	(株)ケーユー菖蒲店を設置
平成22年4月	(株)モトーレン東名横浜BMW Premium Selection 横浜山下公園を設置
平成22年6月	(株)モトーレン東名横浜が事業譲受により横須賀支店を設置
平成23年2月	(株)モトーレン東名横浜BMW東名横浜本店及びMINI東名横浜をリニューアルオープン
平成23年4月	(株)ファーレン神奈川中央が(株)ファイブスター東名横浜を吸収合併し、(株)ファイブスター東名横浜に名称を変更
平成23年4月	(株)ケーユー佐野店を設置
平成23年10月	(株)シュテルン世田谷メルセデス・ベンツ世田谷南をリニューアルオープン
平成24年4月	(株)ケーユー仙台東店を設置

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社および当社の関係会社、以下同じ。）は、当社および子会社4社より構成されており、自動車の販売および修理を主たる事業として展開しております。

当社グループの当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

なお、次の2事業部門（国産車販売事業、輸入車ディーラー事業）は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。



- 1．お客様に対し、自動車の販売および修理を行っております。また、お客様より中古車の仕入れを行っております。
- 2．お客様より仕入れた中古車について、品質を点検の上、小売可能な商品は、その商品を販売するのに最適なグループ内の会社に販売しております。また、自動車の修理は、適したサービス工場を有するグループ内の会社に外注委託をしております。
- 3．主要な事業を示しております。

（注）提出会社は、連結子会社に対し一部の店舗を賃貸しております。また、提出会社は、純粋持株会社として経営指導を行い一部の業務を受託しております。

## 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の 所有割合 又は被所 有割合 (%)	関係内容				主要な損益情報等 (百万円) (1) 売上高 (2) 経常利益 (3) 当期純利益 (4) 純資産額 (5) 総資産額
					役員の兼任 等(人)	営業上の 取引	設備の賃 貸借	その他	
連結子会社 (株)ケーユー	東京都 町田市	50	国産車販売 事業	所有 100.0	兼任4	経営指導 および業 務受託	土地建物 の賃貸	-	(1) 22,841 (2) 1,209 (3) 685 (4) 4,606 (5) 6,614
連結子会社 (株)シュテルン 世田谷	東京都 町田市	355	輸入車ディー ラー事業	所有 100.0	兼任4	経営指導 および業 務受託	土地建物 の賃貸	-	(1) 14,046 (2) 926 (3) 556 (4) 4,317 (5) 5,156
連結子会社 (株)モトーレン 東名横浜	東京都 町田市	50	輸入車ディー ラー事業	所有 100.0	兼任4	経営指導 および業 務受託	土地建物 の賃貸	資金貸付	(1) 9,740 (2) 303 (3) 168 (4) 278 (5) 3,204
連結子会社 (株)ファイブス ター東名横浜	東京都 町田市	10	輸入車ディー ラー事業	所有 100.0	兼任4	経営指導 および業 務受託	土地建物 の賃貸	-	-
その他の関係 会社 (有)ヤマサン	東京都 町田市	32	不動産の管理 業	被所有 38.6	兼任3	-	-	-	-

(注) 1. 連結子会社の「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 上記子会社4社は、特定子会社に該当いたしません。

3. 関係会社のうちには有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4. (株)ケーユー、(株)シュテルン世田谷および(株)モトーレン東名横浜については、売上高(連結会社間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

## 5【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

(平成24年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(人)
国産車販売事業	228 (91)
輸入車ディーラー事業	275 (55)
報告セグメント計	503 (146)
全社(共通)	41 (4)
合計	544 (150)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門(提出会社)に所属しているものであります。

## (2) 提出会社の状況

(平成24年3月31日現在)

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
41(4)	38.6	8.8	4,714,444

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。
3. 従業員は、すべて管理部門に所属しております。

## (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は良好であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、東日本大震災の影響により落ち込んだ企業活動や個人消費には緩やかながら持ち直しの動きが見られたものの、長期化する円高、欧州における金融不安、さらには原油価格の高騰などを背景に、先行き不透明な状況で推移いたしました。

自動車販売業界におきましては、東日本大震災の影響から秋口には生産、販売ともに回復し、昨年末に復活したエコカー補助金の効果もあって足許では新車の販売は無難に推移しております。年度を通しての軽自動車を含めた新車の総登録台数は、475万台（対前年度比3.3%増加）となりました。一方、外国メーカー車の新車販売台数は、223千台（同22.1%増加）となりました。

国産中古車マーケットにつきましては、軽自動車を含めた中古車登録台数は659万台（同1.1%増加）と6年ぶりに前年度実績を上回る結果となりました。

このような状況下、当社グループの経営成績は以下のとおりとなりました。

売上高は、前年度に比べ6,254百万円増加の49,459百万円（前年度比14.5%増加）となりました。カテゴリー別では、国産車は、前年度に比べ2,236百万円増加の19,047百万円（同13.3%増加）となりました。また、輸入車は、前年度に比べ3,267百万円増加の21,946百万円（同17.5%増加）となりました。

修理売上高は、前年度に比べ189百万円増加の5,015百万円（同3.9%増加）となりました。また、手数料収入は、販売台数の増加に伴い、前年度に比べ585百万円増加の3,060百万円（同23.7%増加）となりました。

売上原価は、前年度に比べ5,115百万円増加の39,881百万円（同14.7%増加）となりました。この結果、原価率は、80.6%と前年度に比べ0.1ポイント悪化いたしました。

販売費及び一般管理費は、前年度に比べ99百万円増加の6,656百万円（同1.5%増加）となりました。経費率は、13.5%と前年度に比べ1.7ポイント改善いたしました。

営業利益は、前年度に比べ1,040百万円増加の2,921百万円（同55.3%増加）となり、営業利益率は、前年度に比べ1.5ポイント改善し5.9%となりました。

営業外損益は、純収益が前年度に比べ6百万円増加の93百万円となり、経常利益は、前年度に比べ1,047百万円増加の3,014百万円（同53.2%増加）となりました。

特別損益は、純収益が12百万円となり、税金等調整前当期純利益は、前年度に比べ1,637百万円増加の3,026百万円（同117.9%増加）となりました。

この結果、当期純利益は、前年度に比べ1,598百万円増加の2,150百万円（同290.0%増加）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

	国産車販売事業		輸入車ディーラー事業	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
平成24年3月期	22,539	1,178	26,919	1,259
平成23年3月期	19,845	904	23,358	688
増減率	13.6 %	30.2 %	15.2 %	82.9 %

#### (2)キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、6,101百万円になりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因はつぎのとおりであります。

##### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は、3,176百万円（前年度比1,662百万円増加）となりました。

主な増加要因は、税金等調整前当期純利益3,026百万円（同1,637百万円増加）、減価償却費882百万円（同2百万円増加）及び仕入債務の増加428百万円（同693百万円増加）であり、主な減少要因は、売上債権の増加額385百万円（同345百万円増加）及び法人税等の支払額994百万円（同433百万円増加）であります。



#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は、84百万円（前年度比2,048百万円減少）となりました。

主な減少要因は、投資有価証券の売却による収入225百万円（同207百万円増加）及び投資有価証券の償還による収入100百万円（同100百万円増加）であり、主な増加要因は、有形固定資産の取得による支出320百万円（同2,745百万円減少）、有価証券の取得による支出246百万円（同246百万円増加）及び投資有価証券の取得による支出100百万円（同100百万円増加）であります。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果支出した資金は、404百万円（前年度比148百万円減少）となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出12百万円（同38百万円減少）、配当金の支払額205百万円（同40百万円増加）及び自己株式の取得による支出199百万円（同137百万円減少）によるものであります。

## 2【仕入及び販売の状況】

### (1)仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

（単位：百万円）

セグメントの名称	当連結会計年度 （自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）	前年同期比（％）
国産車販売事業	16,213	111.2
輸入車ディーラー事業	23,266	116.5
合計	39,479	114.2

（注）1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2)販売実績

当連結会計年度の販売状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

（単位：百万円）

セグメントの名称	当連結会計年度 （自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）	前年同期比（％）
国産車販売事業	22,539	113.6
輸入車ディーラー事業	26,919	115.2
合計	49,459	114.5

（注）1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 3【対処すべき課題】

東日本大震災やタイ洪水の影響による国産新車の供給不足が解消した事に加え、復興需要とエコカー補助金の効果から、足許の新車販売は無難に推移しております。しかし、少子高齢化の進展や車に対する嗜好の変化等の構造的な問題のほか、景気低迷の長期化による個人消費の落ち込みにより、国内の自動車販売マーケットは縮小傾向を続け、更にエコカー補助金終了後の販売減が懸念される等、大きな回復が期待できる状況にはありません。

このような状況下、当社グループでは、組織のスリム化と業務の効率化により生産性の向上を図るとともに、コストコントロールを強め、総需要が減少する経営環境においても、十分な利益を確保できる企業体質の構築に努めてまいりました。

今後も引続き収益力の強化を図りつつ、積極的な店舗の拡充や純粋持株会社の特徴と財務面での強みを活かしたM&Aの推進等を通じ、グループの成長を図ってまいります。

#### 4【事業等のリスク】

企業が事業を遂行している限り、様々なリスクを伴いますが、当社グループにおいては、リスクの発生を防止、分散、あるいはヘッジすることによりリスクの軽減に努めております。しかしながら、予想を超える事態が生じた場合には、当社グループの業績に影響をおよぼす可能性があります。なお、以下の記述のうち将来に関する部分は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 販売店契約について

当社グループは、自動車メーカー各社の正規ディーラーとして業務を行っておりますが、何らかの事由により販売店契約等が継続できなくなった場合には、正規ディーラーとしての業務の取扱いができなくなり、業績に影響をおよぼす可能性があります。

当社グループは、自動車メーカー各社と良好な関係を築いており、今後とも販売活動等を通じて拡販に注力し、良好な関係を維持、継続してまいります。

##### (2) 店舗について

当社グループは、東京都町田市を中心に南関東地区に集中して店舗を有しております。今後、首都直下型の大規模地震等が発生した場合には、在庫商品や日常の営業活動に支障をきたし、業績および財政状態に影響をおよぼす可能性があります。当社グループでは、出店エリアを拡大することで、リスク分散をはかっております。

また、国道16号線の拡幅工事に伴ない、工事期間中および完成後の交通事情変化による来客の変動が起きた場合には、主にグループの旗艦店である㈱ケーユー本店の業績に影響をおよぼす可能性があります。

##### (3) マーケットの環境について

東日本大震災やタイ洪水の影響による国産新車の供給不足が解消した事に加え、復興需要とエコカー補助金の効果から、足許の新車販売は無難に推移しております。しかし、少子高齢化の進展や車に対する嗜好の変化等の構造的な問題のほか、景気低迷の長期化による個人消費の落ち込みにより、国内の自動車販売マーケットは縮小傾向を続け、更にエコカー補助金終了後の販売減が懸念される等、大きな回復が期待できる状況にはありません。今後、所得税率や消費税率の引上げが実施された場合には、更に需要が減少する可能性があります。

#### 5【経営上の重要な契約等】

##### 業務提携契約

契約年月日	契約先	契約内容	契約品目	契約期間
平成18年12月26日	クライスラー日本㈱	販売店契約	自動車およびその部用品	平成19年1月1日から平成20年12月31日までとし、以後自動更新
平成21年1月1日	ビー・エム・ダブリュー㈱	正規ディーラー契約	自動車およびその部用品	平成23年1月1日から平成24年12月31日まで
平成22年3月31日	メルセデス・ベンツ日本㈱	販売店契約	日本向け乗用車・部品・用品およびサービス製品	平成22年4月1日から平成22年12月31日までとし、以後自動更新
平成22年9月6日	フォルクスワーゲングループジャパン㈱	取引基本契約	製品およびサービス	平成23年1月1日から平成26年12月31日までとし、以後自動更新
平成23年1月1日	ゼネラルモーターズ・ジャパン㈱	ディーラー契約	新車車両および部品・アクセサリーの販売およびサービス	平成23年1月1日から平成25年12月31日まで

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

### (1)重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。なお、「重要な会計方針及び見積り」については、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について」に記載のとおりであります。

### (2)財政状態

総資産は、32,094百万円（対前年度比2,625百万円増加）となりました。これは主に、投資有価証券が172百万円、商品及び製品が267百万円減少しましたが、現金及び預金が2,687百万円、売掛金が385百万円、有価証券が150百万円増加したことによるものであります。

負債は、5,875百万円（同832百万円増加）となりました。これは主に、買掛金が428百万円、未払法人税等が205百万円増加したことによるものであります。

純資産は、26,219百万円（同1,793百万円増加）となりました。これは主に、利益剰余金が1,944百万円増加しましたが、自己株式を199百万円取得したことによるものであります。

### (3)当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の経営成績の分析につきましては、「第2 事業の状況 1. 業績等の概要（1）業績」に記載のとおりであります。

### (4)経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 4. 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

### (5)経営戦略の現状と見通し

当社グループは、組織のスリム化と業務の効率化により生産性の向上を図るとともに、コストコントロールを一層強め、総需要が減少する経営環境においても十分な利益を確保できる企業体質の構築に努めてまいります。

新規出店や既存店舗のリニューアルに加え、将来を見据えた新規分野への進出等により、業績の拡大のみならず事業ポートフォリオの増強を図るほか、純粋持株会社の特徴と当社グループの財務面での強みを活かしたM & Aの積極的な展開等を通じ、グループの成長を図ってまいります。

### (6)資本の財源及び資金の流動性についての分析

「第2 事業の状況 1. 業績等の概要（2）キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

### (7)経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識と今後の方針につきましては、「第2 事業の状況 3. 対処すべき課題」に記載のとおりであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、集客力の強化、販売力の増強を目的とし、輸入車ディーラー事業を中心に総額316百万円の設備投資を実施いたしました。主なものは次のとおりであります。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

(単位：百万円)

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備投資の内容	設備投資額
メルセデス・ベンツ世田谷南(東京都世田谷区)	輸入車ディーラー事業	店舗建設等	274

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は以下のとおりであります。

##### (1)提出会社

(平成24年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額				従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	工具・器 具・備品 (百万円)		合計 (百万円)
㈱ケーユー 本店 (東京都町田市)	全社 (共通)	賃貸 設備	3,024	-	5,026 (18,672.11) [1,245.00]	10	8,061	- (-)
㈱ケーユー 秦野店 (神奈川県秦野市)	同上	賃貸 設備	-	-	120 (885.85) [-]	-	120	- (-)
㈱ケーユー 千葉ニュータウン店 (千葉県印西市)	同上	賃貸 設備	226	-	- (-) [8,591.69]	0	226	- (-)
㈱ケーユー 佐野店 (栃木県佐野市)	同上	賃貸 設備	45	-	144 (2,481.81) [-]	-	190	- (-)
㈱シュテルン世田谷 メルセデス・ベンツ東名横浜 (東京都町田市)	同上	賃貸 設備	-	-	347 (1,783.59) [-]	-	347	- (-)
㈱シュテルン世田谷 メルセデス・ベンツ多摩 (東京都多摩市)	同上	賃貸 設備	78	0	364 (2,237.16) [-]	0	443	- (-)
㈱シュテルン世田谷 メルセデス・ベンツあざみ野 (横浜市青葉区)	同上	賃貸 設備	255	-	1,710 (3,679.36) [-]	0	1,966	- (-)
㈱モーターレン東名横浜 東名横浜本店および MINI東名横浜 (東京都町田市)	同上	賃貸 設備	367	-	418 (1,794.50) [1,013.00]	-	786	- (-)
㈱ファイブスター東名横浜 クライスラー・ジープ・ダッジ 相模原 (相模原市中央区)	同上	賃貸 設備	8	0	- (-) [1,362.00]	-	8	- (-)
㈱ファイブスター東名横浜 クライスラー・ジープ・ダッジ 東名横浜 GMシボレー東名横浜 (東京都町田市)	同上	賃貸 設備	111	-	412 (1,645.39) [-]	-	524	- (-)
㈱ファイブスター東名横浜 フォルクスワーゲン相模原橋本 (相模原市緑区)	同上	賃貸 設備	138	-	- (-) [2,120.44]	-	138	- (-)

## (2)子会社

(平成24年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	工具・器 具・備品 (百万円)	合計 (百万円)	
(株)ケーユー (注)4	本店 (東京都町田市)	国産車 販 売事業	管理設備 販売設備 修理設備	63	41	- (-) [20,275.64]	4	109	101 (45)
(株)ケーユー	八王子店 (東京都八王子 市)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	68	0	- (-) [3,010.06]	0	69	9 (4)
(株)ケーユー	東大和店 (東京都東大和 市)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	6	1	- (-) [3,684.00]	0	7	6 (4)
(株)ケーユー	相模原西店 (相模原市南区)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	5	0	- (-) [2,629.70]	0	6	6 (4)
(株)ケーユー	横須賀店 (神奈川県横須 賀市)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	-	0	- (-) [2,846.07]	-	0	6 (2)
(株)ケーユー	戸塚店 (横浜市戸塚区)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	10	0	- (-) [7,056.94]	0	11	13 (4)
(株)ケーユー (注)4	秦野店 (神奈川県秦野 市)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	36	2	- (-) [4,373.85]	0	38	15 (6)
(株)ケーユー	千葉店 (千葉市中央区)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	78	4	298 (7,765.70) [-]	0	381	13 (5)
(株)ケーユー	久喜白岡店 (埼玉県白岡町)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	17	1	- (-) [3,021.99]	0	19	11 (5)
(株)ケーユー	宇都宮イン ターパーク店 (栃木県宇都宮 市)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	22	2	- (-) [6,611.71]	0	25	13 (5)
(株)ケーユー	三郷インター店 (埼玉県三郷 市)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	-	-	- (-) [5,696.00]	-	-	6 (2)
(株)ケーユー (注)4	千葉ニュータウ ン店 (千葉県印西市)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	0	4	- (-) [8,591.69]	0	4	13 (5)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	工具・器 具・備品 (百万円)	合計 (百万円)	
(株)ケーユー	葛蒲店 (埼玉県久喜市)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	16	1	- (-) [2,324.92]	0	19	5 (3)
(株)ケーユー (注)4	佐野店 (栃木県佐野市)	国産車 販 売事業	販売設備 修理設備	2	2	- (-) [2,481.81]	2	7	4 (2)
(株)ケーユー	買取専門平塚 店 (神奈川県平塚市)	国産車 販 売事業	販売設備	2	-	- (-) [163.80]	0	2	2 (1)
(株)ケーユー	買取専門鷓野森 店 (相模原市南区)	国産車 販 売事業	販売設備	21	-	- (-) [1,536.05]	-	21	2 (-)
(株)シュテル ン世田谷 (注)4	メルセデス・ベ ンツ東名横浜 (東京都町田市)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	534	64	120 (507.09) [1,972.71]	5	724	30 (4)
(株)シュテル ン世田谷 (注)4	メルセデス・ベ ンツ多摩 (東京都多摩市)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	26	45	- (-) [2,237.16]	1	73	17 (2)
(株)シュテル ン世田谷	メルセデス・ベ ンツ世田谷南 (東京都世田谷 区)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	671	91	458 (869.30) [-]	8	1,230	32 (8)
(株)シュテル ン世田谷	メルセデス・ベ ンツ世田谷南 サーティファイ ドカー・セン ター (東京都世田谷 区)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備	10	7	- (-) [1,221.31]	1	19	5 (2)
(株)シュテル ン世田谷 (注)4	メルセデス・ベ ンツあざみ野 (横浜市青葉区)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	6	94	- (-) [1,014.00]	4	104	38 (5)
(株)モトーレ ン東名横浜 (注)4	東名横浜本店お よび MINI 東名横 浜 (東京都町田市)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	3	120	- (-) [2,807.50]	10	135	36 (5)
(株)モトーレ ン東名横浜	横浜三ツ沢支店 (横浜市神奈川 区)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	410	83	- (-) [698.67]	8	502	20 (4)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	工具・器 具・備品 (百万円)	合計 (百万円)	
(株)モトーレン東名横浜	横浜磯子支店 (横浜市磯子区)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	2	38	- (-) [2,046.86]	0	41	19 (3)
(株)モトーレン東名横浜	横須賀支店 (神奈川県横須賀市)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	-	30	- (-) [1,154.15]	0	30	12 (4)
(株)モトーレン東名横浜	B MW Premium Selection 町 田鶴川 (東京都町田市)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備	21	7	126 (835.04) [2,562.00]	0	156	6 (1)
(株)モトーレン東名横浜	B MW Premium Selection 横浜 六角橋 (横浜市神奈川 区)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備	30	5	- (-) [1,749.46]	0	36	5 (1)
(株)モトーレン東名横浜	B MW Premium Selection 横浜 山下公園 (横浜市中区)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備	36	10	- (-) [2,261.48]	0	47	7 (2)
(株)ファイブスター東名横浜 (注)4	クライスラー・ ジープ・ダッジ 相模原 (相模原市中央区)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	1	17	- (-) [1,530.00]	0	19	8 (3)
(株)ファイブスター東名横浜 (注)4	クライスラー・ ジープ・ダッジ 東名横浜 GMシボレー東 名横浜 (東京都町田市)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	2	43	- (-) [1,645.39]	1	46	16 (4)
(株)ファイブスター東名横浜	ハーレーダビッド ソン相模原(相 模原市中央区)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	16	6	- (-) [3,467.08]	0	22	10 (4)
(株)ファイブスター東名横浜 (注)4	フォルクスワー ゲン相模原橋本 (相模原市緑 区)	輸入車 ディー ラー事業	販売設備 修理設備	0	39	- (-) [2,120.40]	4	44	14 (1)

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. [ ]内は賃借中の面積を示し外数表示しております。土地および建物等の年間賃借料は774百万円であります。

3. 従業員数の( )内は臨時雇用者数を示し外数表示しております。

4. 子会社(株)ケーユー、(株)シュテルン世田谷、(株)モトーレン東名横浜および(株)ファイブスター東名横浜は、土地および建物等を提出会社より賃借しております。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

#### (1)設備の新設計画

該当事項はありません。

#### (2)設備の除却計画

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

## 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	23,063,012	23,063,012	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	23,063,012	23,063,012	-	-



## (2) 【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成18年7月21日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	1,660	1,660
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	166,000	166,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,075	同左
新株予約権の行使期間	自平成20年8月1日 至平成25年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する 場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 1,075 資本組入額 538 (注)	同左
新株予約権の行使の条件	権利行使時においても、当社又は当 社子会社の取締役、監査役、執行役 員、従業員の地位にあることを要す る。 新株予約権者が死亡した場合は、相 続人が行使できるものとする。 行使請求日の前日終値(取引が成 立しない場合は、それに先立つ直近 の取引日の終値)が行使価額に 1.05を乗じた金額に満たない場合 は、行使できない。 その他の条件については、本取締役 会決議に基づき、別途当社と新株予 約権者との間で締結する「新株予 約権割当契約」に定めるところに よる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社の 承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付 に関する事項	-	-

(注) 払込金額は、権利付与日後に当社が時価を下回る払込金額で新株式を発行する場合には、次の算式により調整されます。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

また、払込金額は、株式の分割又は併合の場合にも適宜調整されます。調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げます。

## 平成19年9月20日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	361	361
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	36,100	36,100
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	自平成19年10月2日 至平成49年10月1日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する 場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 1 資本組入額 1	同左
新株予約権の行使の条件	<p>当社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日、もしくは、当社子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日(子会社の取締役又は執行役員を兼務している場合は、そのいずれの地位も喪失した日。執行役員については、その地位を喪失した日又は従業員退職のいずれか遅い日とする。)のそれぞれの翌日から10日間内一括して行使する方法によってのみ行使できるものとする。</p> <p>新株予約権者が死亡により退任した場合は、その相続人は相続開始から3ヶ月間に限り行使できるものとする。ただし、取締役会が相続人の行使可能期間を延長した場合、延長後の行使可能期間の満了するまで行使できるものとする。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

平成20年8月8日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	440	440
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	44,000	44,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	自平成20年9月2日 至平成50年9月1日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する 場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 1 資本組入額 1	同左
新株予約権の行使の条件	<p>当社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日、もしくは、当社子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日(子会社の取締役又は執行役員を兼務している場合は、そのいずれの地位も喪失した日。執行役員については、その地位を喪失した日又は従業員退職のいずれか遅い日とする。)のそれぞれの翌日から原則として10日間に一括して行使する方法によってのみ行使できるものとする。</p> <p>新株予約権者が死亡により退任した場合は、その相続人は相続開始から3ヶ月間に限り行使できるものとする。ただし、取締役会が相続人の行使可能期間を延長した場合、延長後の行使可能期間の満了するまで行使できるものとする。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

## 平成21年6月24日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	430	430
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	43,000	43,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	自平成21年8月1日 至平成51年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する 場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 1 資本組入額 1	同左
新株予約権の行使の条件	<p>当社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日、又は、当社子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日(子会社の取締役又は執行役員を兼務している場合は、そのいずれの地位も喪失した日。執行役員については、その地位を喪失した日又は従業員退職のいずれか遅い日とする。)のそれぞれの翌日から原則として10日間内に一括して行使する方法によってのみ新株予約権を行使できるものとする。新株予約権者が死亡により退任した場合は、その相続人は相続開始から3ヶ月間に限り行使できるものとする。ただし、取締役会が相続人の行使可能期間を延長した場合、延長後の行使可能期間の満了するまで行使できるものとする。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

平成22年6月28日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	760	760
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	76,000	76,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	自平成22年8月1日 至平成25年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する 場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 1 資本組入額 1	同左
新株予約権の行使の条件	<p>当社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日、又は、当社子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日(子会社の取締役又は執行役員を兼務している場合は、そのいずれの地位も喪失した日。執行役員については、その地位を喪失した日又は従業員退職のいずれか遅い日とする。)のそれぞれの翌日から原則として10日間内に一括して行使する方法によってのみ新株予約権を行使できるものとする。新株予約権者が死亡により退任した場合は、その相続人は相続開始から3ヶ月間に限り行使できるものとする。ただし、取締役会が相続人の行使可能期間を延長した場合、延長後の行使可能期間の満了するまで行使できるものとする。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

平成23年6月28日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	760	760
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	76,000	76,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	自平成23年8月1日 至平成53年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する 場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 1 資本組入額 1	同左
新株予約権の行使の条件	<p>当社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日、又は、当社子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日(子会社の取締役又は執行役員を兼務している場合は、そのいずれの地位も喪失した日。執行役員については、その地位を喪失した日又は従業員退職のいずれか遅い日とする。)のそれぞれの翌日から原則として10日間内に一括して行使する方法によってのみ新株予約権を行使できるものとする。新株予約権者が死亡により退任した場合は、その相続人は相続開始から3ヶ月間に限り行使できるものとする。ただし、取締役会が相続人の行使可能期間を延長した場合、延長後の行使可能期間の満了するまで行使できるものとする。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成18年4月1日 (注)	11,531,506	23,063,012	-	6,321	-	6,439

(注) 平成18年3月15日開催の取締役会決議に基づき、平成18年4月1日付で1株を2株に株式分割したことにより、発行済株式総数が、11,531,506株増加しております。

## (6) 【所有者別状況】

(平成24年3月31日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満 株式の状 況(株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その 他		
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	11	17	54	33	1	2,194	2,310	-
所有株式 数 (単元)	-	35,521	884	66,377	6,278	1	121,490	230,551	7,912
所有株式 数の割合 (%)	-	15.41	0.38	28.79	2.72	0.00	52.70	100.00	-

(注) 1. 自己株式7,655,543株は、「個人その他」に76,555単元および「単元未満株式の状況」に43株を含めて記載しております。

2. 「その他の法人」および「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ13単元および44株含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

(平成24年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(有)ヤマサン	東京都町田市鶴間1201番地	5,942	25.77
東京海上日動火災保険(株)	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	1,116	4.84
(株)損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿1丁目26番1号	994	4.31
井上 順子	東京都町田市	642	2.79
日本興亜損害保険(株)	東京都千代田区霞が関3丁目7番3号	572	2.48
ケーユー従業員持株会	東京都町田市鶴間1670番地	292	1.27
三井住友海上火災保険(株)	東京都中央区新川2丁目27番2号	254	1.10
井上 恵博	東京都町田市	220	0.95
(株)ジャックス	北海道函館市若松町2番5号	200	0.87
(株)セディナ	愛知県名古屋市中区丸の内3丁目23番20号	200	0.87
計	-	10,435	45.25

(注) 当社は、自己株式7,655千株33.19%を保有しております。

## (8) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

(平成24年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 7,655,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,399,600	153,996	-
単元未満株式	普通株式 7,912	-	-
発行済株式総数	23,063,012	-	-
総株主の議決権	-	153,996	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,300株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数13個が含まれております。

## 【自己株式等】

(平成24年3月31日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所 有株式数 (株)	他人名義所 有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(株)ケーユーホールディングス	東京都町田市 鶴間1670番地	7,655,500	-	7,655,500	33.19
計	-	7,655,500	-	7,655,500	33.19



## ( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、会社法に基づき、新株予約権を発行する方法によるものであります。

当該制度の内容は、以下のとおりであります。

(平成18年7月21日取締役会決議)

当社および当社子会社の取締役、執行役員および従業員に対して付与することを、平成18年7月21日開催の取締役会において決議されたものであります。

決議年月日	平成18年7月21日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役7名、当社執行役員および従業員並びに当社子会社の取締役および従業員46名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(平成19年9月20日取締役会決議)

当社取締役および執行役員、当社子会社取締役および執行役員に対して付与することを、平成19年9月20日の取締役会において決議されたものであります。

決議年月日	平成19年9月20日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役7名、当社執行役員並びに当社子会社の取締役、執行役員および従業員3名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(平成20年8月8日取締役会決議)

当社取締役および当社子会社取締役並びに執行役員に対して付与することを、平成20年8月8日の取締役会において決議されたものであります。

決議年月日	平成20年8月8日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役7名、当社子会社取締役並びに執行役員3名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(平成21年6月24日取締役会決議)

当社取締役および当社子会社取締役並びに執行役員に対して付与することを、平成21年6月24日の取締役会において決議されたものであります。

決議年月日	平成21年6月24日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役7名、当社子会社取締役並びに執行役員3名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(平成22年6月28日取締役会決議)

当社取締役および当社子会社取締役並びに執行役員に対して付与することを、平成22年6月28日の取締役会において決議されたものであります。

決議年月日	平成22年6月28日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役7名、当社子会社取締役並びに執行役員4名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(平成23年6月28日取締役会決議)

当社取締役および当社子会社取締役並びに執行役員に対して付与することを、平成23年6月28日の取締役会において決議されたものであります。

決議年月日	平成23年6月28日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役7名、当社子会社取締役並びに執行役員4名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

## (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成24年2月9日)での決議状況 (取得期間 平成24年2月10日～平成24年3月16日)	700,000	283,500,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	400,000	199,600,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	300,000	83,900,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	42.9	29.6
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	42.9	29.6

## (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	119	43,253
当期間における取得自己株式	-	-

## (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	7,655,543	-	7,655,543	-

### 3【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策の一つと位置付けており、安定的かつ継続的な配当を基本に、財務体質の強化及び今後の成長戦略等を総合的に勘案して配当額を決定しております。内部留保につきましては、新規出店やM & A等、将来の企業価値を高めるための投資に充当します。

この方針のもと、過去最高益を更新したことも勘案し、当期における期末配当金は、1株当たり11円50銭（5円の増配）とし、第2四半期配当6円50銭と合わせて年間では18円とすることを決定しました。

剰余金の配当等の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会となっております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）
平成23年11月10日 取締役会決議	102	6円50銭
平成24年6月27日 定時株主総会決議	177	11円50銭

### 4【株価の推移】

#### （1）【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高（円）	840	485	406	439	610
最低（円）	410	178	210	284	334

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

#### （2）【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高（円）	373	370	390	420	550	610
最低（円）	348	345	351	379	390	485

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

## 5【役員 の 状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長兼社長	-	井上 恵博	昭和11年7月22日生	昭和36年4月 神奈川トヨタ自動車㈱入社 昭和47年10月 ケーユー商事㈱(現㈱ケーユー ホールディングス)を設立し、取 締役 昭和49年12月 当社代表取締役社長 昭和63年6月 ㈱ビ・ケーユー(現㈱シュテル ン世田谷)を設立し、代表取締役 (現任) 平成11年6月 当社代表取締役会長(現任) 平成13年3月 当社代表取締役社長(現任) 平成16年11月 ㈱モトーレン東名横浜を設立し、 代表取締役(現任) 平成19年10月 ㈱ケーユーを設立し、代表取締役 (現任) 平成20年6月 ㈱ファイブスター世田谷(現㈱ ファイブスター東名横浜)代表 取締役(現任) 現在に至る	(注)4	220
代表取締役 副社長	-	板東 徹行	昭和37年3月2日生	昭和61年4月 ㈱ジャックス入社 平成5年3月 興亜火災海上保険㈱(現日本興 亜損害保険㈱)入社 平成15年1月 ㈱シュテルン世田谷専務取締役 平成15年1月 当社専務執行役員 平成16年6月 当社副社長執行役員 平成16年6月 ㈱シュテルン世田谷代表取締役 社長(現任) 平成16年11月 ㈱モトーレン東名横浜代表取締 役社長 平成16年12月 ㈱タウ取締役(現任) 平成17年6月 ㈱モトーレン東名横浜取締役 平成19年6月 当社取締役 平成19年10月 当社代表取締役副社長(現任) 平成20年6月 ㈱ファイブスター世田谷(現㈱ ファイブスター東名横浜)代表 取締役社長(現任) 平成22年6月 ㈱モトーレン東名横浜代表取締 役社長(現任) 現在に至る	(注)4	116
代表取締役 副社長	-	井上 久尚	昭和43年5月6日生	平成5年4月 安田火災海上保険㈱(現㈱損害 保険ジャパン)入社 平成12年7月 当社入社 経営企画室部長 平成13年6月 当社執行役員 平成14年6月 当社常務取締役 平成15年1月 当社常務取締役営業副本部長兼 技術部長 平成15年6月 当社専務取締役 平成16年7月 当社代表取締役副社長 当社営業本部長兼技術部長 平成16年11月 当社代表取締役副社長営業本部 長 平成17年7月 当社代表取締役兼副社長執行役 員営業本部長 平成19年10月 ㈱ケーユー代表取締役兼副社長 執行役員 当社代表取締役副社長(現任) 平成22年6月 ㈱ケーユー代表取締役社長(現 任) 現在に至る	(注)4	179

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
専務取締役	-	今関 諭志	昭和25年8月1日生	昭和44年4月 神奈川トヨタ自動車㈱入社 昭和55年3月 当社入社 平成4年4月 当社管理部長 平成6年4月 当社経営企画室長 平成6年6月 当社取締役 平成7年6月 当社常務取締役 平成9年10月 当社常務取締役営業副本部長兼 経営企画室長 平成13年4月 当社常務取締役営業副本部長兼 経理部長兼経営企画室長 平成15年6月 当社専務取締役 平成16年7月 当社専務取締役経理部長兼経営 企画室長 平成17年4月 当社専務取締役経理部長 平成17年7月 当社取締役兼専務執行役員 平成19年10月 ㈱ケーユー取締役兼専務執行役 員(現任) 当社専務取締役(現任) 現在に至る	(注)4	66
常務取締役	-	橋本 雅之	昭和33年6月13日生	平成3年10月 インチケーブモータース入社 平成12年10月 ㈱シュテルン世田谷入社 平成15年4月 ㈱シュテルン世田谷執行役員営 業本部新車担当兼世田谷支店長 平成17年6月 ㈱シュテルン世田谷取締役執行 役員営業本部新車担当兼世田谷 支店長 平成20年6月 ㈱シュテルン世田谷取締役常務 執行役員営業本部新車本部長兼 メルセデス・ベンツ世田谷南店 長 平成20年7月 ㈱シュテルン世田谷取締役常務 執行役員営業本部長兼新車販 売部長兼メルセデス・ベンツ世田 谷南店長 平成21年1月 当社常務執行役員 平成21年6月 当社常務取締役(現任) 平成22年1月 ㈱シュテルン世田谷取締役常務 執行役員営業本部長兼新車本 部長兼メルセデス・ベンツあざみ 野店長(現任) 現在に至る	(注)4	21
常務取締役	総合企画部長	堀内 伸泰	昭和25年9月11日生	昭和50年4月 ㈱東京銀行(現㈱三菱東京UF J銀行)入行 平成17年4月 当社入社 経営企画室長 平成19年6月 当社取締役 平成19年10月 当社取締役経営企画部長 平成21年4月 当社取締役総合企画部長 平成24年6月 当社常務取締役総合企画部長 (現任) 現在に至る	(注)4	14
取締役	店舗開発部長	稲垣 正義	昭和40年1月2日生	昭和62年4月 当社入社 平成11年8月 当社第5部ブロック長 平成13年4月 当社営業企画室長 平成14年4月 当社店舗開発室長 平成19年6月 当社取締役 平成19年10月 当社取締役店舗開発部長(現 任) 現在に至る	(注)4	19

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	-	萩原 博文	昭和39年6月16日生	平成14年10月 当社入社 平成15年4月 総務部次長 平成22年4月 ケーユー管理部管理グループ 平成24年6月 当社常勤監査役(現任) 現在に至る	(注)5	21
監査役	-	細野 泰司	昭和23年2月10日生	昭和45年5月 (有)細野コンクリート(現細野コンクリート(株))を設立し、代表取締役(現任) 昭和59年8月 (株)細野商事を設立し、代表取締役(現任) 昭和61年12月 細野運輸(株)を設立し、代表取締役(現任) 平成4年6月 当社監査役(現任) 現在に至る	(注)5	-
監査役	-	細野 保	昭和11年7月22日生	平成5年3月 (有)サザンゴルフガーデン(現(有)角松屋)代表取締役 平成6年6月 当社監査役 平成18年4月 当社監査役退任 平成18年5月 (有)サザンゴルフガーデン(現(有)角松屋)取締役 平成18年11月 細野不動産鑑定事務所代表(現任) 平成19年6月 当社監査役(現任) 平成21年2月 (株)細野商会代表取締役 現在に至る	(注)6	2
監査役	-	山之口 久人	昭和9年4月10日生	昭和32年4月 日本味噌(株)入社 昭和37年3月 日本コロムビア(株)入社 昭和44年8月 三宝建設(株)入社 昭和47年3月 朝日リビング(株)を設立、代表取締役 平成13年3月 朝日リビング(株)代表取締役会長(現任) 平成23年6月 当社監査役(現任) 現在に至る	(注)6	5
計						666

- (注) 1. 代表取締役副社長井上久尚は、代表取締役会長兼社長井上恵博の長男であります。  
2. 代表取締役副社長板東徹行は、代表取締役会長兼社長井上恵博の長女の配偶者であります。  
3. 監査役細野泰司、細野保および山之口久人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
4. 平成23年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間  
5. 平成24年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間  
6. 平成23年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間



## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

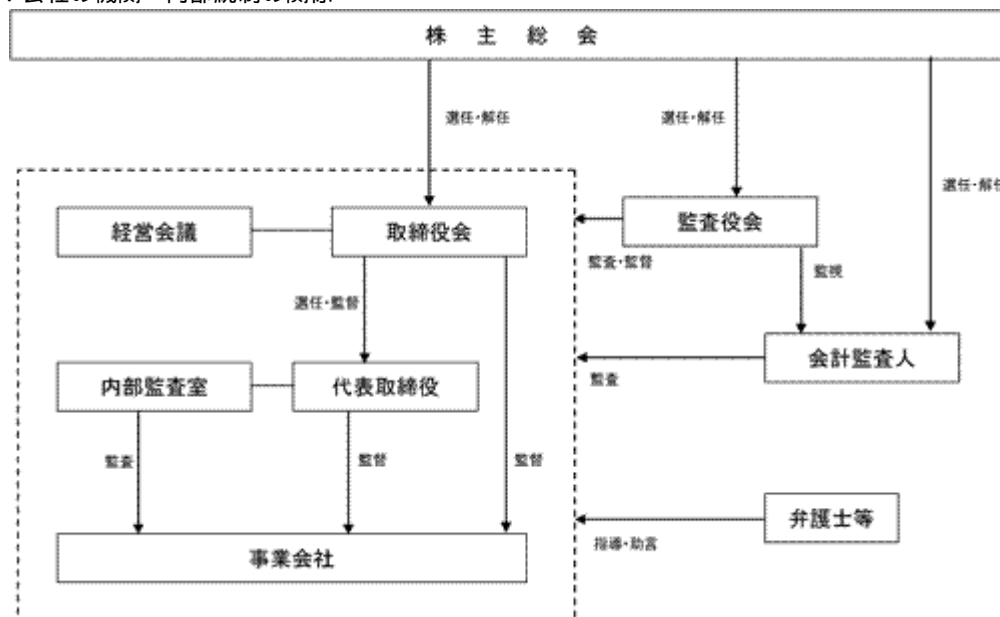
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方と企業統治の体制を採用する理由

当社は、取締役会の活性化と監査役会の機能強化および内部監査の充実を通じ、経営の効率性、透明性、健全性を向上させ、継続的な企業価値の向上を実現することをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針としております。

また、当社グループは、純粋持株会社体制を導入しており、持株会社がグループの経営戦略ならびに事業の監督を行い、事業会社は事業に専念することにより、役割分担と責任・権限を明確にし、それぞれの機能の専門性を高めております。

会社の機関等の内容と内部統制システムの整備の状況

#### a. 会社の機関・内部統制の関係



#### b. 取締役会・経営会議

当社の取締役会は、取締役7名で構成されております。取締役会は、毎月1回開催するほか、必要に応じて随時開催し、法令で定めた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、代表取締役および業務執行部門を監督しております。このほか、グループ各社の取締役、執行役員および常勤監査役をメンバーとする経営会議を原則毎月1回開催し、当社グループの経営戦略や取締役会に上程する重要案件の事前審議を行う等、取締役の意思決定および職務執行の効率化を図っております。

#### c. 監査役・監査役会

当社の監査役会は、3名の社外監査役を含む4名で構成され、原則として毎月1回開催しております。監査役は、業務執行に係る重要な文書および稟議書等を閲覧し、必要に応じ取締役会または使用人にその説明を求めることとしております。また、常勤監査役は、取締役会のほか経営会議等主要な会議に出席し、重要な意思決定の過程および業務の進捗状況について報告を受ける体制をとっております。

監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制として、監査役会は、会計監査人から会計監査についての説明を受けるとともに、適宜情報の交換を行うとともに、内部監査人とも密接な連携を保ち、監査役の監査の実効性を高めることとしております。また、監査役の職務を補助する組織として監査役会事務局を設置し、監査業務を補助する職員を配置しております。

なお、常勤監査役萩原博文氏は、当社総務部役職を歴任し、幅広い知識と見識を有しております。また、監査役会事務局としての経験も豊富です。

#### d. 会計監査人

当社は、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を結び、厳正な監査を受けております。監査業務を遂行した公認会計士は、山口直志氏および内野福道氏であります。また、その補助者は、公認会計士5名、その他12名であります。監査役会と会計監査人とは、監査計画および監査結果についての活発な意見交換が行われ、十分な連携が図られております。

## e . 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査は、業務執行部門から独立し、経営者直属の内部監査室によって行っております。内部監査室は2名で構成され、監査役会および会計監査人と連携し子会社を含むグループ全社の監査を行っております。また、内部監査室と監査役会および会計監査人である有限責任 あずさ監査法人とは、監査計画の打合せおよび監査結果についての活発な意見交換が行われ、十分な連携が図られております。

## 社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は3名であります。

各社外監査役は、監査役会において監査結果の報告および意見交換を行い、情報の共有化を図り以降の監査活動に役立てております。なお、いずれの社外監査役も、当社グループとの間に取引関係その他利害関係はなく、その独立性は十分に確保されております。外部の有識経験者であり、第三者の立場から経営意思決定に対し、適宜適切なアドバイスを行っております。

社外監査役細野泰司氏は、細野運輸(株)代表取締役であります。当社と同社の間には特別な関係はありません。同氏は、企業経営者としての幅広い経験と高い知見に基づき、独立した客観的な立場から会社の業務執行に対するチェックを期待し選任したものであります。

社外監査役細野保氏は、(株)細野商会代表取締役であります。当社と同社の間には特別な関係はありません。同氏は、外部の有識経験者であり、高い見識に基づき、公平で客観的な立場から会社の業務執行に対するチェックを期待し選任したものであります。

社外監査役山之口久人氏は、朝日リビング(株)代表取締役会長であります。当社と同社の間には特別な関係はありません。同氏は、企業経営者として豊富な経験と実績、幅広い知識と見識を有し、独立した立場から、適切なアドバイスと当社の業務執行に対するチェックを期待し選任したものであります。

なお、当社は、社外監査役が企業統治において果たす機能及び役割並びに当該社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針について定めておりません。

社外監査役を含む監査役監査と、内部監査および会計監査との相互連携や内部統制部門との関係は、上記の「 会社の機関等の内容と内部統制システムの整備の状況 e . 内部監査及び監査役監査の状況」に記載のとおりであります。

当社は社外取締役を選任しておりません。当社は、経営の意思決定機能と、執行役員による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役4名中の3名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役3名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

## 役員報酬の内容

イ．当事業年度における当社の取締役および監査役に対する役員報酬は以下のとおりであります。

役員区分	金銭報酬 (百万円)	新株予約権 (百万円)	合計 (百万円)	対象となる役員 の員数(人)
取締役	127	15	143	7
監査役 (社外監査役を除く)	3	-	3	1
社外監査役	0	-	0	3

(注) 1. 上記には、使用人兼務取締役の使用人給与相当額19百万円を含んでおります。

2. 各役員ごとの役員の報酬等の種類別の額については、次のとおりであります。なお、連結子会社から受ける役員の報酬等の額を含め、役員の報酬の額が1億円に満たないものについては記載を省略しております。

役名	氏名	会社名	金銭報酬 (百万円)	新株予約権 (百万円)	合計 (百万円)
代表取締役 会長兼社長	井上 恵博	(株)ケーユーホールディングス	58	4	63
		(株)ケーユー	60	-	60
		計	118	4	123

ロ．取締役の報酬および賞与は、株主総会で承認された報酬総額の範囲内において取締役会です承された方法により決定しています。監査役の報酬及び賞与は、株主総会で承認された報酬総額の範囲内で、監査役の協議によって決定しています。

## 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款で定めております。

## 取締役の選任及び解任の株主総会決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨およびその選任決議は累積投票によらない旨を定款に定めております。

また、解任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

#### 取締役会で決議できる株主総会決議事項

##### a. 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、機動的な資本政策を遂行できるようにするためであります。

##### b. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役および監査役の責任免除について、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）および監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

また、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役および社外監査役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。

これは、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

##### c. 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## 株式保有の状況

当社および連結子会社のうち、投資株式の貸借対照表計上額（投資株式計上額）が最も大きい会社（最大保有会社）である当社については以下のとおりであります。

## a. 投資株式のうち、純投資目的以外の目的であるものの銘柄数および貸借対照表計上額の合計額

16銘柄 387百万円

## b. 保有目的が純投資目的以外の目的である上場投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額および保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額（百万円）	保有目的
(株)横浜銀行	461,408	182	（注1）
(株)ジャックス	754,000	168	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	308,770	118	同上
(株)八千代銀行	7,560	21	同上
(株)ユー・エス・エス	3,000	19	同上
太陽インキ製造(株)	4,320	11	同上
(株)平和	6,000	7	同上
(株)オートボックスセブン	2,200	6	同上
豊田通商(株)	4,242	5	同上
(株)日立メディコ	3,000	3	同上
(株)ナック	1,391	2	同上
住友ベークライト(株)	3,000	1	同上
愛三工業(株)	1,454	1	同上
みずほ証券(株)	5,463	1	同上
三信電気(株)	1,518	1	同上
兼松エレクトロニクス(株)	1,100	0	同上
(株)ミツバ	1,210	0	同上
横浜冷凍(株)	1,210	0	同上
グリーンランドリゾート(株)	1,200	0	同上
(株)ハナテン	1,100	0	同上
(株)セキド	1,100	0	同上

（注）1．当社グループにおける業務遂行上の関係強化および情報収集を目的として保有しております。

2．保有目的が純投資目的である投資株式は保有しておりません。

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
(株)横浜銀行	461,408	191	(注1)
(株)ジャックス	398,000	117	同上
(株)ユー・エス・エス	3,000	25	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	42,070	17	同上
太陽インキ製造(株)	4,320	9	同上
(株)オートバックスセブン	2,200	8	同上
豊田通商(株)	4,242	7	同上
(株)ナック	1,391	2	同上
住友ベークライト(株)	3,000	1	同上
(株)みずほフィナンシャル・グループ	8,085	1	同上
三信電気(株)	1,518	1	同上
兼松エレクトロニクス(株)	1,100	1	同上
横浜冷凍(株)	1,210	0	同上

(注) 1. 当社グループにおける業務遂行上の関係強化および情報収集を目的として保有しております。

2. 保有目的が純投資目的である投資株式は保有しておりません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	27	0	26	-
連結子会社	-	-	-	-
計	27	0	26	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

国際財務報告基準導入の検討に係るアドバイザー業務

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表および事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更について連結財務諸表に的確に反映する体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の変更等の情報収集や講習会への参加等を行っております。

## 1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,414	6,101
受取手形及び売掛金	824	1,209
有価証券	10	161
商品及び製品	5,215	4,948
仕掛品	39	36
原材料及び貯蔵品	152	145
前払費用	108	119
繰延税金資産	263	227
その他	463	687
貸倒引当金	2	4
流動資産合計	10,489	13,633
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,977	9,744
減価償却累計額	2,797	3,249
建物及び構築物(純額)	6,180	6,494
機械装置及び運搬具	1,154	1,227
減価償却累計額	418	441
機械装置及び運搬具(純額)	735	785
工具、器具及び備品	330	342
減価償却累計額	252	270
工具、器具及び備品(純額)	78	72
土地	9,802	9,860
建設仮勘定	488	4
有形固定資産合計	17,285	17,217
無形固定資産	52	38
投資その他の資産		
投資有価証券	700	528
繰延税金資産	33	24
その他	934	674
貸倒引当金	26	22
投資その他の資産合計	1,642	1,204
固定資産合計	18,979	18,460
資産合計	29,469	32,094



	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,129	1,558
1年内返済予定の長期借入金	9	6
未払金及び未払費用	372	532
未払法人税等	477	683
賞与引当金	191	230
資産除去債務	20	-
その他	770	999
流動負債合計	2,970	4,010
固定負債		
長期借入金	107	100
繰延税金負債	1,479	1,264
資産除去債務	61	68
その他	424	431
固定負債合計	2,072	1,864
負債合計	5,042	5,875
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,321	6,321
資本剰余金	6,439	6,439
利益剰余金	16,815	18,759
自己株式	5,279	5,479
株主資本合計	24,296	26,041
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48	78
その他の包括利益累計額合計	48	78
新株予約権	80	98
純資産合計	24,426	26,219
負債純資産合計	29,469	32,094

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	43,204	49,459
売上原価	1 34,765	1 39,881
売上総利益	8,438	9,577
販売費及び一般管理費		
販売諸掛	658	717
広告宣伝費	461	505
役員報酬	333	300
給料及び手当	1,979	2,074
賞与引当金繰入額	104	122
減価償却費	628	599
租税公課	378	326
賃借料	632	595
その他	1,381	1,413
販売費及び一般管理費合計	6,557	6,656
営業利益	1,880	2,921
営業外収益		
受取利息	9	15
受取配当金	16	16
受取地代家賃	51	49
受取保険金	17	18
その他	35	35
営業外収益合計	130	135
営業外費用		
支払利息	5	3
減価償却費	8	7
賃貸費用	28	28
その他	1	2
営業外費用合計	44	41
経常利益	1,967	3,014
特別利益		
投資有価証券売却益	5	36
固定資産売却益	2 237	-
その他	0	-
特別利益合計	243	36
特別損失		
投資有価証券売却損	0	23
固定資産除却損	3 56	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	45	-
減損損失	4 718	-
その他	1	-
特別損失合計	821	23
税金等調整前当期純利益	1,389	3,026
法人税、住民税及び事業税	741	1,056
法人税等調整額	95	179
法人税等合計	837	876
少数株主損益調整前当期純利益	551	2,150
当期純利益	551	2,150

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	551	2,150
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24	30
その他の包括利益合計	24	30
包括利益	526	2,180
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	526	2,180
少数株主に係る包括利益	-	-

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	6,321	6,321
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	6,321	6,321
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	6,439	6,439
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	6,439	6,439
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	16,428	16,815
当期変動額		
剰余金の配当	164	205
当期純利益	551	2,150
当期変動額合計	386	1,944
当期末残高	16,815	18,759
<b>自己株式</b>		
当期首残高	4,942	5,279
当期変動額		
自己株式の取得	337	199
当期変動額合計	337	199
当期末残高	5,279	5,479
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	24,247	24,296
当期変動額		
剰余金の配当	164	205
当期純利益	551	2,150
自己株式の取得	337	199
当期変動額合計	49	1,745
当期末残高	24,296	26,041

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	73	48
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24	30
当期変動額合計	24	30
当期末残高	48	78
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	73	48
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24	30
当期変動額合計	24	30
当期末残高	48	78
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	67	80
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	13	17
当期変動額合計	13	17
当期末残高	80	98
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	24,388	24,426
当期変動額		
剰余金の配当	164	205
当期純利益	551	2,150
自己株式の取得	337	199
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	11	48
当期変動額合計	38	1,793
当期末残高	24,426	26,219

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,389	3,026
減価償却費	880	882
受取利息及び受取配当金	26	31
支払利息	5	3
減損損失	718	-
固定資産除売却損益（は益）	181	-
投資有価証券売却損益（は益）	5	12
売上債権の増減額（は増加）	39	385
たな卸資産の増減額（は増加）	1,055	82
仕入債務の増減額（は減少）	265	428
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	45	-
その他	536	258
小計	2,003	4,088
利息及び配当金の受取額	23	28
利息の支払額	3	1
法人税等の還付額	51	54
法人税等の支払額	560	994
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,514	3,176
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	10	10
定期預金の払戻による収入	210	10
有価証券の取得による支出	-	246
有形固定資産の取得による支出	3,065	320
有形固定資産の売却による収入	600	-
無形固定資産の取得による支出	5	2
投資有価証券の取得による支出	-	100
投資有価証券の売却による収入	18	225
有価証券の償還による収入	-	96
投資有価証券の償還による収入	-	100
敷金及び保証金の差入による支出	8	29
敷金及び保証金の回収による収入	73	161
その他の支出	28	45
その他の収入	83	77
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,133	84
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	164	205
長期借入金の返済による支出	50	12
自己株式の取得による支出	337	199
その他	-	12
財務活動によるキャッシュ・フロー	552	404
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,171	2,687
現金及び現金同等物の期首残高	4,586	3,414
現金及び現金同等物の期末残高	3,414	6,101

## 【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

## 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社は(株)ケーユー、(株)ファイブスター東名横浜、(株)シュテルン世田谷および(株)モトーレン東名横浜の4社であります。

なお、前連結会計年度において連結子会社でありました(株)ファーレン神奈川中央は、平成23年4月1日をもって(株)ファイブスター東名横浜を吸収合併し、社名を(株)ファイブスター東名横浜に変更しております。

## 2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社4社の決算日は、連結決算日と一致しております。

## 4. 会計処理基準に関する事項

## (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

## 有価証券

## その他有価証券

## 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

## 時価のないもの

移動平均法による原価法

## デリバティブ

## 時価法

## たな卸資産

商品 新車 個別法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

中古車 個別法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

原材料 移動平均法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

仕掛品 個別法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

## 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 5年～40年

機械装置及び運搬具 2年～15年

工具、器具及び備品 2年～20年

## 無形固定資産（リース資産を除く）

## ソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）による定額法を採用しております。

## リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

## (3) 重要な引当金の計上基準

## 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

## 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、実際支給見込相当額を引当計上しております。

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

## (5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

## 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

## 【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。



## 【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

## 1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
商品及び製品	245百万円	295百万円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
買掛金	271百万円	362百万円

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	180百万円	157百万円

- 2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
土地	237百万円	-百万円

- 3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
建物及び構築物	28百万円	-百万円
機械装置及び運搬具	18	-
工具、器具及び備品	6	-
原状回復費	2	-
解体費用	0	-
計	56	-

## 4 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

場所	用途	種類
千葉県千葉市 千葉県市原市	事業用資産	土地

当社グループは、事業用資産については管理会計上の事業所単位ごとにグルーピングしております。

収益性が低下している上記資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(718百万円)として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、不動産鑑定価格により評価しております。

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

該当事項はありません。

## (連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金:

当期発生額	52百万円
組替調整額	12
税効果調整前	40
税効果額	10
その他有価証券評価差額金	30
その他の包括利益合計	30

## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	23,063,012	-	-	23,063,012
合計	23,063,012	-	-	23,063,012
自己株式				
普通株式(注)	6,194,100	1,061,324	-	7,255,424
合計	6,194,100	1,061,324	-	7,255,424

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取による増加124株、取締役会決議による自己株式の取得による増加1,061,200株であります。

## 2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプションとして の新株予約権	-	-	-	-	-	80
合計		-	-	-	-	-	80

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月28日 定時株主総会	普通株式	84	5円00銭	平成22年3月31日	平成22年6月29日
平成22年11月11日 取締役会	普通株式	80	5円00銭	平成22年9月30日	平成22年12月10日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	102	利益剰余金	6円50銭	平成23年3月31日	平成23年6月29日

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	23,063,012	-	-	23,063,012
合計	23,063,012	-	-	23,063,012
自己株式				
普通株式（注）	7,255,424	400,119	-	7,655,543
合計	7,255,424	400,119	-	7,655,543

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取による増加119株、取締役会決議による自己株式の取得による増加400,000株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （百万円）
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 （親会社）	ストック・オプションとして の新株予約権	-	-	-	-	-	98
	合計	-	-	-	-	-	98

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	102	6円50銭	平成23年3月31日	平成23年6月29日
平成23年11月10日 取締役会	普通株式	102	6円50銭	平成23年9月30日	平成23年12月12日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	177	利益剰余金	11円50銭	平成24年3月31日	平成24年6月28日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）
現金及び預金勘定	3,414百万円	6,101百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	10	10
公社債投資信託（フリーファイナンシャル ファンド）	10	10
現金及び現金同等物	3,414	6,101

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に店舗建設のための設備投資計画に照らして必要な資金（銀行借入金や入居保証金）を調達しております。

一時的な余資は銀行の定期預金を中心とした安全性の高い金融資産で運用しております。一部の余剰資金について効率的な運用を図ることを目的として、長期的な債券及び複合金融商品への投資を行なっております。

複合金融商品に組み込まれたデリバティブを除き、デリバティブは、リスク回避のために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。デリバティブが組み込まれた複合金融商品についても、投機的な取引は避け、選別的に運用しております。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、すべて1年以内の支払期日であります。

長期借入金は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は最長で15年であります。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行に係るリスク）の管理

当社グループは、債権管理規程を定め、取引先との信用取引についての遵守事項を定めております。個人に対する掛売りは原則として行いませんが、例外的に掛売りが認められる場合と承認申請の手順は経理部通達にて定めております。さらに、取引先ごとの売掛金残高は経理部にて把握し、定期的に当該顧客を担当する拠点に通知し、拠点が責任をもって債権回収に当たる体制となっております。

また、個人顧客のクレジット利用により信販会社への売掛金が発生しますが、財務内容の良好な信販会社のみを取引対象としているため、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引の契約先は、信用度の高い損害保険会社のため信用リスクはほとんどないと認識しておりません。

当期の決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限および取引限度額等を定めた社内ルールに従い、稟議等により承認を得て行っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いをできなくなるリスク）の管理

当社は、経理部が各部署からの報告に基づき資金繰計画を作成・更新するとともに、出納日報により取引銀行の預金残高を確認することにより、流動性リスクを管理しております。

## (4) 金融商品の時価に関する事項についての補足説明

金融商品のなかには、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。

## (5) 信用リスクの集中

当期の決算日現在における営業債権のほとんどは、財務内容が良好な信販会社向けのものであります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含めておりません（（注）2参照）。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	3,414	3,414	-
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金 1	824 2		
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	821 696	821 696	- -
資産計	4,932	4,932	-
(1) 支払手形及び買掛金	1,129	1,129	-
(2) 未払法人税等	477	477	-
(3) 長期借入金 2	116	119	2
負債計	1,724	1,726	2

1. 売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。
2. 1年以内に期限到来の長期借入金を含めております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	6,101	6,101	-
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金 1	1,209 4		
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	1,205 675	1,205 675	- -
資産計	7,982	7,982	-
(1) 支払手形及び買掛金	1,558	1,558	-
(2) 未払法人税等	683	683	-
(3) 長期借入金 2	107	112	5
負債計	2,348	2,353	5

1. 売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。
2. 1年以内に期限到来の長期借入金を含めております。

## (注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

## 資産

## (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは全て短期であるため、時価が帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」を参照下さい。

## 負債

## (1) 支払手形及び買掛金、(2) 未払法人税等

これらは全て短期であるため、時価が帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 長期借入金

長期借入金の時価は、一定の期間ごとに区分した債務ごとに、その将来キャッシュ・フローを、返済期日までの期間および信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

## 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
公社債投資信託(フリーファイ ナンシャルファンド)	10	10
非上場株式	3	3
地震デリバティブ	-	-

契約金額 3 億円

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

## 3. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	3,414	-	-	-
受取手形及び売掛金	824	-	-	-
有価証券及び 投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの	-	-	100	-
合計	4,238	-	100	-

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	6,101	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,209	-	-	-
有価証券及び 投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの	150	100	-	-
合計	7,461	100	-	-

## 4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」を参照下さい。

## (有価証券関係)

## 1. その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	463	385	78
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	101	100	1
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	564	485	79
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	132	153	21
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	132	153	21
	合計	696	638	58

(注) 1. 表中の「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。

2. 非上場株式(連結貸借対照表計上額3百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 株式の減損にあたっては、時価の下落率が50%超下落した銘柄について減損処理し、また、30%以上50%以下まで下落した銘柄については、社内にて以下の基準を採用し、減損処理しております。

「期末現在、時価が取得原価に比べて40%以上下落した銘柄については、回復する見込みがあると認められる場合を除き減損処理を行う。」



当連結会計年度（平成24年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	403	303	99
	(2) 債券			
	国債・地方債等	102	100	1
	社債	150	150	0
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	656	554	102
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	19	21	2
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	19	21	2
	合計	675	575	100

(注) 1. 表中の「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。

2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額3百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 株式の減損にあたっては、時価の下落率が50%超下落した銘柄について減損処理し、また、30%以上50%以下まで下落した銘柄については、社内にて以下の基準を採用し、減損処理しております。

「期末現在、時価が取得原価に比べて40%以上下落した銘柄については、回復する見込みがあると認められる場合を除き減損処理を行う。」

## 2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	18	5	0
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	18	5	0

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	227	36	23
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	227	36	23

## (デリバティブ取引関係)

## 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(平成23年3月31日)

## 地震デリバティブ取引

地震デリバティブ取引の契約金額は3億円であるが、時価については公正な評価額を算定することが極めて困難と認められるため、時価評価は行っておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

## 複合金融商品関連

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	他社株転換社債	150	-	150	0

(注) 1. 取引金融機関から提示された価格に基づき、時価を算定しております。

2. 組込デリバティブを合理的に区分して測定できないため、当該複合金融商品全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。

3. 契約額等については、当該複合金融商品(他社株転換社債)の購入金額を表示しております。

## 地震デリバティブ取引

地震デリバティブ取引の契約金額は3億円であるが、時価については公正な評価額を算定することが極めて困難と認められるため、時価評価は行っておりません。

## 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

該当事項はありません。

## (退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定拠出年金制度を採用しております。

当社グループは、東京自動車サービス厚生年金基金に加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は、退職給付会計実務指針33項の例外処理を行う制度であります。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

## (1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
年金資産の額	26,461百万円	25,582百万円
年金財政計算上の給付債務の額	31,782百万円	30,955 百万円
差引額	5,320百万円	5,372 百万円

## (2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
8.2%	7.8%

## (3) 補足説明

差引額の要因内容

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当年度不足金	1,189百万円	1,461百万円
特別掛金収入現価(未償却過去勤務債務)	4,131百万円	3,911百万円
差引額	5,320百万円	5,372百万円

## 2. 退職給付債務に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
(1) 厚生年金基金掛金(百万円)	99	96
(2) 確定拠出年金掛金(百万円)	72	74
(3) 退職給付費用(百万円)	172	170

(ストック・オプション等関係)

## 1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上原価の株式報酬費	-	-
一般管理費の株式報酬費	14	18

## 2. ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

## (1) ストック・オプションの内容

	平成18年 ストック・オプション	平成19年 ストック・オプション	平成20年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 7名 当社執行役員および従業員、当社子会社の取締役および従業員 46名	当社取締役 7名 当社執行役員および当社子会社の取締役、執行役員、従業員 3名	当社取締役 7名 当社子会社の取締役および執行役員 3名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 166,000株	普通株式 36,100株	普通株式 44,000株
付与日	平成18年 8月 7日	平成19年10月 1日	平成20年 9月 1日
権利確定条件	<p>権利行使時においても当社又は当社子会社の取締役、監査役、執行役員、従業員の地位にあることを要する。</p> <p>新株予約権者が死亡した場合は、相続人が行使できるものとする。</p> <p>行使請求日の前日終値（取引が成立しない場合はそれに先立つ直近の取引日の終値）が行使価額に1.05を乗じた金額に満たない場合は、行使できない。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	<p>当社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日、もしくは、当社子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日（子会社の取締役又は執行役員を兼務している場合は、そのいずれの地位も喪失した日。執行役員については、その地位を喪失した日又は従業員退職のいずれか遅い日とする。）のそれぞれの翌日から10日間に一括して行使する方法によってのみ行使できるものとする。</p> <p>新株予約権者が死亡により退任した場合は、その相続人は相続開始から3ヶ月間に限り行使できるものとする。ただし、取締役会が相続人の行使可能期間を延長した場合、延長後の行使可能期間の満了するまで行使できるものとする。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	<p>当社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日又は当社子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日（子会社の取締役又は執行役員を兼務している場合は、そのいずれの地位も喪失した日。執行役員については、その地位を喪失した日又は従業員退職のいずれか遅い日とする。）のそれぞれの翌日から10日間に一括して行使する方法によってのみ、新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>新株予約権者が死亡により退任した場合は、その相続人は相続開始から3ヶ月間に限り新株予約権を行使できるものとする。ただし、取締役会が相続人の行使可能期間を延長した場合、延長後の行使可能期間の満了するまで、当該相続人は新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>
対象勤務期間	自平成18年 8月 7日 至平成20年 7月31日	対象期間の定めはありません。	自平成20年 9月 1日 至平成20年 9月 2日
権利行使期間	自平成20年 8月 1日 至平成25年 7月31日	自平成19年10月 2日 至平成49年10月 1日	自平成20年 9月 2日 至平成50年 9月 1日

(注) 株式数に換算して記載しております。

	平成21年 ストック・オプション	平成22年 ストック・オプション	平成23年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 7名 当社子会社の取締役および執行役員 3名	当社取締役 7名 当社子会社の取締役および執行役員 4名	当社取締役 7名 当社子会社の取締役および執行役員 4名
株式の種類別の ストック・オプション の数(注)	普通株式 43,000株	普通株式 76,000株	普通株式 76,000株
付与日	平成21年 7月31日	平成22年 7月31日	平成23年 7月31日
権利確定条件	<p>当社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日又は当社子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日(子会社の取締役又は執行役員を兼務している場合は、そのいずれの地位も喪失した日。執行役員については、その地位を喪失した日又は従業員退職のいずれか遅い日とする。)のそれぞれの翌日から10日間に一括して行使する方法によってのみ、新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>新株予権者が死亡により退任した場合は、その相続人は相続開始から3か月間に限り新株予約権を行使できるものとする。ただし、取締役会が相続人の行使可能期間を延長した場合、延長後の行使可能期間の満了するまで、当該相続人は新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	<p>当社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日又は当社子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日(子会社の取締役又は執行役員を兼務している場合は、そのいずれの地位も喪失した日。執行役員については、その地位を喪失した日又は従業員退職のいずれか遅い日とする。)のそれぞれの翌日から10日間に一括して行使する方法によってのみ、新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>新株予権者が死亡により退任した場合は、その相続人は相続開始から3か月間に限り新株予約権を行使できるものとする。ただし、取締役会が相続人の行使可能期間を延長した場合、延長後の行使可能期間の満了するまで、当該相続人は新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	<p>当社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日又は当社子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した日(子会社の取締役又は執行役員を兼務している場合は、そのいずれの地位も喪失した日。執行役員については、その地位を喪失した日又は従業員退職のいずれか遅い日とする。)のそれぞれの翌日から10日間に一括して行使する方法によってのみ、新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>新株予権者が死亡により退任した場合は、その相続人は相続開始から3か月間に限り新株予約権を行使できるものとする。ただし、取締役会が相続人の行使可能期間を延長した場合、延長後の行使可能期間の満了するまで、当該相続人は新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>その他の条件については、取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>
対象勤務期間	平成21年 7月31日	平成22年 7月31日	平成23年 7月31日
権利行使期間	自平成21年 8月 1日 至平成51年 7月31日	自平成22年 8月 1日 至平成52年 7月31日	自平成23年 8月 1日 至平成53年 7月31日

(注) 株式数に換算して記載しております。

## (2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成24年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

## ストック・オプションの数

	平成18年 ストック・ オプション	平成19年 ストック・ オプション	平成20年 ストック・ オプション	平成21年 ストック・ オプション	平成22年 ストック・ オプション	平成23年 ストック・ オプション
権利確定前 (株)						
前連結会計年 度末	-	36,100	44,000	43,000	76,000	-
付与	-	-	-	-	-	76,000
失効	-	-	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-	-	-
未確定残	-	36,100	44,000	43,000	76,000	76,000
権利確定後 (株)						
前連結会計年 度末	168,000	-	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-	-	-
権利行使	-	-	-	-	-	-
失効	2,000	-	-	-	-	-
未行使残	166,000	-	-	-	-	-

## 単価情報

	平成18年 ストック・ オプション	平成19年 ストック・ オプション	平成20年 ストック・ オプション	平成21年 ストック・ オプション	平成22年 ストック・ オプション	平成23年 ストック・ オプション
権利行使価格 (円)	1,075	1	1	1	1	1
行使時平均株価 (円)	-	-	-	-	-	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	185	459	205	235	185	241



### 3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積り方法

当連結会計年度において付与された平成23年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積り方法は以下のとおりであります。

(1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

(2) 主な基礎数値および見積り方法

	平成23年ストック・オプション
株価変動性 (注) 1	38.7%
予想残存期間 (注) 2	12.6年
予想配当 (注) 3	13円 / 株
無リスク利子率 (注) 4	1.4%

(注) 1. 付与日前14.6年間(平成8年12月から平成23年7月)の株価実績に基づき算定しております。

2. 当社の規定に基づく定年時に行使されるものと推定して見積っております。

3. 平成23年3月期の配当実績によっております。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

### 4. ストック・オプションの権利確定数の見積り方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	39百万円	60百万円
賞与引当金	78	88
在庫未実現利益	1	0
その他	211	91
繰延税金資産(流動)小計	330	240
評価性引当額	66	13
繰延税金資産(流動)合計	264	227
繰延税金負債との相殺額	0	0
繰延税金資産(流動)純額	263	227
繰延税金資産(固定)		
投資有価証券評価損	222	48
長期未払金(役員退職慰労金)	143	125
減価償却超過額	95	80
その他	129	141
繰延税金資産(固定)小計	591	395
評価性引当額	465	284
繰延税金資産(固定)合計	125	110
繰延税金負債との相殺額	91	86
繰延税金資産(固定)純額	33	24
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	9	20
資産除去債務	14	14
固定資産圧縮積立金	1,546	1,316
繰延税金負債(固定)合計	1,571	1,350
繰延税金資産との相殺額	91	86
繰延税金負債(固定)純額	1,479	1,264

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.7%	40.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2	0.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.2	0.7
住民税均等割による影響	1.0	0.5
評価性引当額の増減	17.3	6.0
税率変更による影響額	-	5.1
その他	0.3	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	60.3	29.0

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.7%から平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)は156百万円減少し、法人税等調整額は153百万円減少しております。

## (企業結合等関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## (資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

## イ 当該資産除去債務の概要

販売施設用建物の事業用定期借地契約に伴う原状回復義務等であります。

## ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

物件ごとに使用見込期間を取得から契約満了日までとし、割引率は使用見込期間に応じたリスクフリーレートを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

## ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
期首残高(注)	90百万円	81百万円
有形固定資産の取得による増加額	-	6
時の経過による調整額	1	1
資産除去債務の履行による減少額	10	20
期末残高	81百万円	68百万円

(注) 前連結会計年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

## (賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

各報告セグメントは、それぞれ特徴の異なる商品を取り扱っており、収益・財務構造および営業戦略が異なることから、それぞれ独立した報告セグメントとしております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益および振替高は、当社の規定に基づき決定しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注)	合計
	国産車 販売事業	輸入車 ディーラー 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,845	23,358	43,204	-	43,204
セグメント間の内部売上高 又は振替高	365	305	671	671	-
計	20,211	23,664	43,875	671	43,204
セグメント利益	904	688	1,593	287	1,880
セグメント資産	6,312	9,134	15,446	14,022	29,469
セグメント負債	1,391	4,223	5,615	572	5,042
その他の項目					
減価償却費	76	455	531	339	871
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	493	1,511	2,004	2,326	4,331

（注）調整額は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社に関するものです。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注)	合計
	国産車 販売事業	輸入車 ディーラー 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	22,539	26,919	49,459	-	49,459
セグメント間の内部売上高 又は振替高	302	397	700	700	-
計	22,841	27,317	50,159	700	49,459
セグメント利益	1,178	1,259	2,437	483	2,921
セグメント資産	6,614	9,588	16,203	15,891	32,094
セグメント負債	2,007	4,100	6,108	233	5,875
その他の項目					
減価償却費	71	492	563	311	875
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	181	1,170	1,351	63	1,415

（注）調整額は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社に関するものです。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	43,875	50,159
セグメント間取引消去	671	700
連結財務諸表の売上高	43,204	49,459

（単位：百万円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,593	2,437
当社とセグメントとの内部取引消去額	998	1,042
セグメント間取引消去	0	5
全社費用（注）	710	564
連結財務諸表の営業利益	1,880	2,921

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

（単位：百万円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	15,446	16,203
セグメント間取引消去	58	63
当社とセグメントにおける債権債務の相殺額	820	0
全社資産（注）	14,901	15,954
連結財務諸表の資産合計	29,469	32,094

（注）全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の建物および土地であります。

（単位：百万円）

負債	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	5,615	6,108
セグメント間取引消去	58	63
当社とセグメントにおける債権債務の相殺額	2,844	2,384
全社負債（注）	2,329	2,214
連結財務諸表の負債合計	5,042	5,875

（注）全社負債は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の繰延税金負債であります。

（単位：百万円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	531	563	339	311	871	875
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,004	1,351	2,326	63	4,331	1,415

（注）有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の建物および土地の取得額であります。

## 【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高であって、連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高であって、連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	合計
	国産車 販売事業	輸入車 ディーラー 事業	計		
減損損失	-	-	-	718	718

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）  
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）  
該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自平成22年 4月 1日 至平成23年 3月31日）  
該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日）  
該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自平成22年 4月 1日 至平成23年 3月31日）  
該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日）  
該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自平成22年 4月 1日 至平成23年 3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員	井上 恵博	-	-	当社取締役	(被所有)直接1.2	-	四輪車の販売	11	-	-

(注) 1. 取引金額には消費税等は含まれておりません。  
2. 取引内容の四輪車の販売は、当社の規定に基づき行っております。

当連結会計年度（自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日）  
該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

## ( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	1,540.12円	1,695.34円
1株当たり当期純利益金額	34.06円	136.26円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	33.70円	133.93円

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	551	2,150
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	551	2,150
期中平均株式数(株)	16,190,392	15,781,303
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
普通株式増加数(株)	173,377	274,404
(新株予約権)	(173,377)	(274,404)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	平成18年新株予約権(新株予約権の数1,680個) これらの詳細については、「第4.提出会社の状況1株式等の状況(2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。	平成18年新株予約権(新株予約権の数1,660個) これらの詳細については、「第4.提出会社の状況1株式等の状況(2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

## (重要な後発事象)

当社は、平成24年6月21日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議いたしました。

## 1. 自己株式取得に関する取締役会の決議内容

## (1) 取得する株式の種類

当社普通株式

## (2) 取得する株式の総数

500,000株(上限)

## (3) 取得する期間

平成24年6月22日から平成25年3月15日

## (4) 取得価額の総額

225百万円(上限)



## 【連結附属明細表】

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	9	6	2.1	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	107	100	2.1	平成25年～ 平成39年
その他有利子負債				
買掛金	59	-	-	-
未払金	-	4	2.8	-
長期未払金	-	8	2.8	平成26年
合計	176	120	-	-

(注) 1. 平均利率については、当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)及び長期未払金の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	6	6	6	6
長期未払金	4	3	-	-

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	11,177	23,641	35,928	49,459
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	646	1,451	2,075	3,026
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	426	909	1,513	2,150
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	26.99	57.54	95.75	136.26

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	26.99	30.55	38.21	40.55

2【財務諸表等】  
 (1)【財務諸表】  
 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	853	2,128
有価証券	10	161
前払費用	12	24
繰延税金資産	15	22
関係会社短期貸付金	2,516	1,990
未収収益	2 328	2 391
その他	31	120
流動資産合計	3,766	4,838
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,341	5,341
減価償却累計額	1,085	1,346
建物(純額)	4,255	3,994
構築物	530	531
減価償却累計額	219	270
構築物(純額)	310	261
機械及び装置	25	25
減価償却累計額	24	24
機械及び装置(純額)	0	0
工具、器具及び備品	61	66
減価償却累計額	50	55
工具、器具及び備品(純額)	11	11
土地	8,488	8,547
有形固定資産合計	13,067	12,814
無形固定資産		
電話加入権	15	15
ソフトウェア	3	1
無形固定資産合計	18	16
投資その他の資産		
投資有価証券	659	489
関係会社株式	4,873	4,591
出資金	0	0
長期前払費用	76	14
敷金及び保証金	148	139
保険積立金	11	12
その他	4	4
貸倒引当金	4	4
投資その他の資産合計	5,770	5,247
固定資産合計	18,856	18,078
資産合計	22,623	22,917

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	820	-
1年内返済予定の長期借入金	6	6
未払金	19	18
未払費用	290	365
未払法人税等	16	51
預り金	21	22
前受収益	12	11
賞与引当金	25	26
その他	44	29
流動負債合計	1,257	532
固定負債		
受入保証金	12	12
長期借入金	107	100
長期未払金	352	352
繰延税金負債	1,397	1,194
その他	23	22
固定負債合計	1,892	1,681
負債合計	3,150	2,214
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,321	6,321
資本剰余金		
資本準備金	6,439	6,439
資本剰余金合計	6,439	6,439
利益剰余金		
利益準備金	193	193
その他利益剰余金		
配当平均積立金	2	2
固定資産圧縮積立金	2,137	2,229
別途積立金	38	38
繰越利益剰余金	9,497	10,785
利益剰余金合計	11,869	13,249
自己株式	5,279	5,479
株主資本合計	19,350	20,531
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	41	72
評価・換算差額等合計	41	72
新株予約権	80	98
純資産合計	19,473	20,702
負債純資産合計	22,623	22,917

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業収益</b>		
子会社経営指導料	219	252
子会社業務受託手数料	500	500
子会社貸貸収入	766	765
子会社受取配当金	220	915
営業収益合計	1,707	2,433
<b>営業費用</b>		
役員報酬	169	128
給与及び手当	193	198
賞与引当金繰入額	25	21
減価償却費	340	309
賃借料	88	80
租税公課	218	153
支払手数料	53	50
その他	111	103
営業費用合計	1,201	1,044
営業利益	506	1,389
<b>営業外収益</b>		
受取利息	21	25
受取配当金	14	15
受取地代家賃	34	34
雑収入	1	6
営業外収益合計	72	81
<b>営業外費用</b>		
支払利息	5	3
減価償却費	8	7
貸貸費用	17	17
営業外費用合計	30	27
経常利益	548	1,443
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	0	36
固定資産売却益	237	-
新株予約権戻入益	0	-
特別利益合計	239	36
<b>特別損失</b>		
投資有価証券売却損	-	23
固定資産除却損	10	-
減損損失	718	-
特別損失合計	729	23
税引前当期純利益	58	1,455
法人税、住民税及び事業税	31	91
法人税等調整額	114	222
法人税等合計	145	130
当期純利益又は当期純損失( )	87	1,585

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	6,321	6,321
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	6,321	6,321
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	6,439	6,439
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	6,439	6,439
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	6,439	6,439
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	6,439	6,439
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	193	193
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	193	193
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>配当平均積立金</b>		
当期首残高	2	2
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2	2
<b>固定資産圧縮積立金</b>		
当期首残高	2,221	2,137
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	84	75
税率変更に伴う圧縮積立金の増加	-	168
当期変動額合計	84	92
当期末残高	2,137	2,229
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	38	38

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	38	38
繰越利益剰余金		
当期首残高	9,665	9,497
当期変動額		
剰余金の配当	164	205
当期純利益又は当期純損失( )	87	1,585
固定資産圧縮積立金の取崩	84	75
税率変更に伴う圧縮積立金の増加	-	168
当期変動額合計	168	1,288
当期末残高	9,497	10,785
利益剰余金合計		
当期首残高	12,121	11,869
当期変動額		
剰余金の配当	164	205
当期純利益又は当期純損失( )	87	1,585
固定資産圧縮積立金の取崩	-	-
税率変更に伴う圧縮積立金の増加	-	-
当期変動額合計	252	1,380
当期末残高	11,869	13,249
自己株式		
当期首残高	4,942	5,279
当期変動額		
自己株式の取得	337	199
当期変動額合計	337	199
当期末残高	5,279	5,479
株主資本合計		
当期首残高	19,940	19,350
当期変動額		
剰余金の配当	164	205
当期純利益又は当期純損失( )	87	1,585
自己株式の取得	337	199
当期変動額合計	589	1,180
当期末残高	19,350	20,531

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	56	41
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	30
当期変動額合計	15	30
当期末残高	41	72
<b>評価・換算差額等合計</b>		
当期首残高	56	41
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	30
当期変動額合計	15	30
当期末残高	41	72
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	67	80
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	13	17
当期変動額合計	13	17
当期末残高	80	98
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	20,064	19,473
当期変動額		
剰余金の配当	164	205
当期純利益又は当期純損失（ ）	87	1,585
自己株式の取得	337	199
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1	48
当期変動額合計	591	1,229
当期末残高	19,473	20,702

## 【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法 (1) 子会社株式及び関連会社株式  
移動平均法による原価法  
(2) その他有価証券  
時価のあるもの  
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）  
時価のないもの  
移動平均法による原価法
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法 デリバティブ  
時価法
3. 固定資産の減価償却の方法 (1) 有形固定資産（リース資産を除く）  
定率法によっております。  
ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については、定額法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。  
建物 5年～40年  
構築物 7年～20年  
(2) 無形固定資産（リース資産を除く）  
ソフトウェア  
社内における利用可能期間（5年）による定額法を採用しております。  
(3) リース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。  
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
4. 引当金の計上基準 (1) 賞与引当金  
従業員に対する賞与の支給に備えるため、実際支給見込相当額を引当計上しております。  
(2) 貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

## 【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。



## 【注記事項】

(貸借対照表関係)

## 1 偶発債務

関係会社の仕入先よりの債務に対し、次のとおり債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(株)ファイブスター東名横浜	7百万円	107百万円
(株)モトーレン東名横浜	64	82
(株)シュテルン世田谷	145	97
(株)ファーレン神奈川中央	67	-
計	284	288

## 2 . 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債に区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
未収収益	328百万円	389百万円

## (損益計算書関係)

## 1 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
土地	237百万円	- 百万円

## 2 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物	1百万円	- 百万円
構築物	7	-
工具、器具及び備品	2	-
計	10	-

## 3 区分掲記しているもののほか、関係会社との取引に係る主なものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
受取利息	17百万円	14百万円

## 4 減損損失

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

場所	用途	種類
千葉県千葉市 千葉県市原市	賃貸用資産	土地

当社は、賃貸用資産については管理会計上の事業所単位ごとにグルーピングしております。

収益性が低下している上記資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(718百万円)として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、不動産鑑定価格により評価しております。

当事業年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

該当事項はありません。

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

## 自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	6,194,100	1,061,324	-	7,255,424
合計	6,194,100	1,061,324	-	7,255,424

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取による増加124株、取締役会決議による自己株式の取得による増加1,061,200株であります。

当事業年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

## 自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	7,255,424	400,119	-	7,655,543
合計	7,255,424	400,119	-	7,655,543

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取による増加119株、取締役会決議による自己株式の取得による増加400,000株であります。

## (有価証券関係)

(単位:百万円)

区分	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
子会社株式	4,873	4,591

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	10百万円	10百万円
その他	23	12
繰延税金資産(流動)小計	33	22
評価性引当額	18	-
繰延税金資産(流動)合計	15	22
繰延税金資産(固定)		
投資有価証券評価損	222	48
長期未払金(役員退職慰労金)	143	125
減価償却超過額	39	35
子会社株式にかかる一時差異	85	90
その他	39	43
繰延税金資産(固定)小計	530	342
評価性引当額	456	274
繰延税金資産(固定)合計	74	68
繰延税金負債との相殺額	74	68
繰延税金資産(固定)純額	-	-
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	4	16
固定資産圧縮積立金	1,466	1,246
繰延税金負債(固定)合計	1,471	1,262
繰延税金資産との相殺額	74	68
繰延税金負債(固定)の純額	1,397	1,194

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.7%	40.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	23.4	0.0
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	159.8	27.0
住民税均等割による影響	2.1	0.1
評価性引当額の増減	345.8	11.1
税率変更による影響	-	11.0
その他	0.9	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	251.3	9.0

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.7%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)は159百万円減少し、法人税等調整額が157百万円減少しております。

## ( 1株当たり情報 )

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
1株当たり純資産額	1,226.78円	1,337.29円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )	5.42円	100.50円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	-	98.78円

(注) 1. 前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
1株当たり当期純損益金額		
当期純損益(百万円)	87	1,585
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純損益(百万円)	87	1,585
期中平均株式数(株)	16,190,392	15,781,303
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
普通株式増加数(株)	-	274,404
(うち新株予約権(株))	-	(274,404)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		平成18年新株予約権(新株予約権の数1,660個) これらの詳細については、「第4.提出会社の状況 1 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

## ( 重要な後発事象 )

当社は、平成24年6月21日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議いたしました。

## 1. 自己株式取得に関する取締役会の決議内容

## (1) 取得する株式の種類

当社普通株式

## (2) 取得する株式の総数

500,000株(上限)

## (3) 取得する期間

平成24年6月22日から平成25年3月15日

## (4) 取得価額の総額

225百万円(上限)

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

投資 有価証券	その他 有 価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
		(株)横浜銀行	461,408	191
(株)ジャックス	398,000	117		
(株)ユー・エス・エス	3,000	25		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	42,070	17		
太陽インキ製造(株)	4,320	9		
(株)オートバックスセブン	2,200	8		
豊田通商(株)	4,242	7		
(株)ナック	1,391	2		
住友ベークライト(株)	3,000	1		
三信電気(株)	1,518	1		
その他(6銘柄)	41,995	6		
計			963,144	387

## 【債券】

有価証券	その他 有 価証券	銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
		ノムラヨーロッパファイナンスエヌ ブイ No.26682	50	50
ノムラヨーロッパファイナンスエヌ ブイ No.26683	50	50		
ノムラヨーロッパファイナンスエヌ ブイ No.26684	50	50		
小計		150	150	
投資 有 価証券	その他 有 価証券	イタリア国債	100	102
		小計	100	102
計		250	253	

## 【その他】

有価証券	その他 有 価証券	種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)
		(公社債投資信託) フリーファイナンシャルファンド	10,179,899	10
計		10,179,899	10	

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	5,341	-	-	5,341	1,346	260	3,994
構築物	530	1	-	531	270	50	261
機械及び装置	25	-	-	25	24	0	0
工具、器具及び備品	61	4	-	66	55	4	11
土地	8,488	58	-	8,547	-	-	8,547
有形固定資産計	14,447	63	-	14,511	1,696	316	12,814
無形固定資産							
電話加入権	15	-	-	15	-	-	15
ソフトウェア	86	-	-	86	85	2	1
無形固定資産計	101	-	-	101	85	2	16
長期前払費用	153	1	135	19	4	5	14

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	4	4	-	4	4
賞与引当金	25	26	24	0	26

(注) 貸倒引当金及び賞与引当金の当期減少額のその他は洗替によるものであります。

## (2)【主な資産及び負債の内容】

## 流動資産

## イ．現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	1
預金の種類	
当座預金	2
普通預金	259
定期預金	1,850
別段預金	4
郵便貯金	11
小計	2,126
合計	2,128

## ロ．関係会社短期貸付金

相手先	金額(百万円)
(株)モトーレン東名横浜	1,990
合計	1,990

## 固定資産

## 関係会社株式

区分	金額(百万円)
(株)ケーユー	3,669
(株)シュテルン世田谷	385
(株)モトーレン東名横浜	273
(株)ファイブスター東名横浜	264
合計	4,591

## 固定負債

繰延税金負債 1,194百万円

内訳は「2 財務諸表等 (1) 財務諸表 注記事項(税効果会計関係)」に記載しております。

## (3)【その他】

該当事項はありません。



## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所 買取手数料	株式の売買の委託に係わる手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告 (注) 1
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 1. 事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

なお、電子公告は下記の当社ホームページに掲載しております。

ホームページアドレス <http://www.ku-hd.com>

2. 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書  
事業年度（第39期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）平成23年6月28日関東財務局長に提出
- (2) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書  
平成23年6月28日関東財務局長に提出
- (3) 内部統制報告書及びその添付書類  
平成23年6月28日関東財務局長に提出
- (4) 四半期報告書及び確認書  
（第40期第1四半期）（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）平成23年8月12日関東財務局長に提出  
（第40期第2四半期）（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）平成23年11月14日関東財務局長に提出  
（第40期第3四半期）（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）平成24年2月14日関東財務局長に提出
- (5) 臨時報告書  
平成23年6月29日関東財務局長に提出  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。
- (6) 自己株券買付状況報告書  
報告期間（自 平成24年2月1日 至 平成24年2月29日）平成24年3月12日関東財務局長に提出  
報告期間（自 平成24年3月1日 至 平成24年3月31日）平成24年4月11日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月27日

株式会社ケーユーホールディングス

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山口 直志 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 内野 福道 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ケーユーホールディングスの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ケーユーホールディングス及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ケーユーホールディングスの平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社ケーユーホールディングスが平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が連結財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年6月27日

株式会社ケーユーホールディングス

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山口 直志 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 内野 福道 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ケーユーホールディングスの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第40期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ケーユーホールディングスの平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。